

ISFJ2017

政策フォーラム発表論文

環境配慮行動促進¹

～持続可能な社会を目指して～

南山大学 鶴見研究会

環境防災エネルギー分科会

駒木映理奈

今井寧乃

佐々木一秀

山本真由

保富美佳

2017年 11月

¹本稿は、2017年12月2日、12月3日に開催される、ISFJ 日本政策学生会議「政策フォーラム2017」のために作成したものである。本稿の作成にあたっては、鶴見哲也准教授（南山大学）をはじめ、多くの方々から有益且つ熱心なコメントを頂戴した。ここに記して感謝の意を表したい。しかしながら、本稿にあり得る誤り、主張の一切の責任はうまでもなく筆者たち個人に帰するものである。

要約

本稿では、持続可能な社会を構築するため、環境配慮行動の促進を実現するための政策提言を行う。

現状分析では環境配慮行動の実施状況、環境配慮行動の阻害要因、社会関係資本について述べる。平成24年に第四次環境基本計画が制定され、「低炭素・循環・自然共生の統合的な達成」が目標として定められた。その目標を達成するために「環境配慮行動」が注目され、重要視されている。当計画制定以後、毎年、計画の点検が行われており、環境配慮行動の実施状況についても調査されている。当調査で、環境配慮行動の指標としているものは14項目あり、5項目を除く9項目は実施率が不十分である。従って、環境配慮行動の重要性は高いものの、実施率は高くない現状が浮かび上がってきた。では、そのような現状の中でどのように環境配慮行動を促していけば良いのか。環境配慮行動が促進されない理由として「社会的ジレンマ」という概念がある。今井(2008)によれば、社会的ジレンマとは、個人利益と公共利益のいずれかを選択しなければならない状況において、個人利益を優先してしまうことである。その社会的ジレンマを解決できるものとして、「社会関係資本」という概念が存在する(Putnam 1993)。社会関係資本とは、稲葉(2008)によれば、「平たくいえば、『信頼』、『情けは人のためならず』、『持ちつ持たれつ』、『お互い様』といった互酬性の規範、そして人やグループの間の絆」である。より簡潔に、抽象的に表現するならば、「人と人とのつながり」と言えるだろう。Putnam(1993)は、社会関係資本が蓄積されている社会では、社会問題に対して人々の自発的な協力を得られるため、社会的ジレンマに陥ることを防げると述べている。

先行研究では、環境意識・行動と社会関係資本、社会関係資本を高める要因に関する先行研究について述べる。環境意識・行動と社会関係資本に関する先行研究として鶴見ら(2011)は、利他的な人は環境意識が高いということを明らかにしている。利他的な人は、他者とのつながりを重視する可能性が高く、社会関係資本が高いと推測できる。従って、社会関係資本が充足している人は、環境意識が高いのではないだろうかとも推測できる。この研究結果から我々は、社会関係資本が充足すると環境配慮行動も促進されるのではないかと仮説を立てた。Videras et al(2012)は、一定の条件下において、社会関係資本によって環境配慮行動が促進されるということを明らかにしている。また、丸田ら(2008)は社会関係資本が高まることで、省エネ行動が促進されることを明らかにしている。これらの研究から、社会関係資本が充足すれば、環境配慮行動が促進されるのではないかと考える。また、社会関係資本を高める要因に関する先行研究として、内閣府国民生活局(2003)の研究がある。当研究によって、ボランティア活動などの市民活動と、社会関係資本の構築が相互に高め合う関係であることが明らかにされている。

先行研究では社会関係資本の決定要因についての研究が不十分であり、なおかつ環境配慮行動について、「節電行動」といったように、大まかな定義づけをして分析を行っている。そこで、我々は環境配慮行動を多様な観点から15項目に分類し、それらへの社会関係資本の影響を検証する。また、家族、知人・友人、地域の人々との関係性の重要度・満

足度を社会関係資本の指標として使用することで、社会関係資本の「利他性」や地域に対する信頼性が、いかに環境配慮行動に影響を及ぼすかを検証していく。そのことを、本稿の独自性とする。さらに、社会関係資本の決定要因も明らかにする。

分析では、環境配慮行動・社会関係資本を内生変数とした2段階の構造方程式モデルにより分析を行う。サンプルを環境規範と社会関係資本の平均以上、以下に分類し、それぞれのサンプルで決定要因を明らかにする。データは本研究室が独自に行った、日本全国を対象にした大規模なWEBアンケート調査を用いる。

分析結果では、2つの分析モデルから得られた決定要因について検証する。まず、環境配慮行動を被説明変数として使用した分析では、社会関係資本の高さが15項目すべての環境配慮行動の高さと関連していることが統計的に有意に正であると示された。また、社会関係資本と環境規範の平均以上と平均以下のサンプル分け結果からも同様の結果が得られている。このことは、社会関係資本が高まると、環境配慮行動が促進されるという可能性を示唆していると言える。次に社会関係資本を決定要因について、9項目すべての市政に対する満足度が統計的に有意に正であるという結果が得られている。この結果は、社会関係資本と環境規範の平均以上と平均以下のサンプル分け結果においても同様である。このことは、9項目の市政に対する満足度を上げることで、社会関係資本が高まるという可能性を示唆している。以上のことから、環境規範の有無、社会関係資本の高さによって影響力に若干の差異はあるものの、社会関係資本に対する市政評価、環境配慮行動に対する社会関係資本が統計的に有意に正であり、環境配慮行動を促進する方法として社会関係資本の向上および市政評価の向上が有効であることが示された。

政策提言では分析結果から、地域活動・ボランティア支援、スポーツの振興、良質な住環境政策、自然環境保護活動、学校教育の充実、大気・水など環境政策、ゴミ処理・リサイクル、公園・街路樹整備、子育て支援の推進に対する市政評価が社会関係資本に影響があることが示唆され、我々は市政評価を上げることが、社会関係資本を高め、結果として環境配慮行動を促進することができる考えた。これらの結果を踏まえ、我々は、尾張旭市、名古屋市、長久手市、あま市に対して聞き取り調査を行った。聞き取り調査を行う中で、「コミュニティ・スクール」というものがあることを知った。我々は、そのコミュニティ・スクールから着想を得て、「小学校の休日開放」というものを考えた。概要としては、小学校の休校日(土日・祝日)に、校舎、グラウンド、体育館、その他施設を開放し、地域の人々に自由にイベントを行ってもらおう。地域の行事、セミナー、スポーツイベントの「場」として有効活用するということである。この「小学校の休日開放」が、市政評価に対する満足度を高め、社会関係資本を充実させる。その結果、環境配慮行動が促進されていくということを結論とする。

目次

はじめに

第1章 現状分析・問題意識

- 第1節 環境配慮行動の実施状況
- 第2節 環境配慮行動の阻害要因
- 第3節 社会関係資本

第2章 先行研究及び本稿の独自性

- 第1節 環境意識・行動と社会関係資本に関する先行研究
- 第2節 社会関係資本を高める要因に関する先行研究
- 第3節 本稿の独自性

第3章 分析

- 第1節 分析モデル
- 第2節 データ
- 第3節 分析結果
 - 第1項 全サンプル分析結果
 - 第2項 環境規範のサンプル別分析結果
 - 第3項 社会関係資本のサンプル別分析結果

第4章 政策提言

- 第1節 政策提言の方向性
- 第2節 政策「小学校の休日開放」有効性
 - 第1項 9つの市政評価を高める「小学校の休日開放」
 - 第2項 他施設ではなく「小学校」を開放する利点
 - 第3項 政策の効果の測定
- 第3節 政策提言のまとめ
- 第4節 おわりに

参考文献・データ出典・別添

はじめに

平成 24 年に第四次環境基本計画が制定された。環境基本計画とは、環境基本法に基づき、環境の保全に関する施策の総合的かつ長期的な施策の大綱を定めるものである。この計画の核として、「低炭素・循環・自然共生の各分野の統合的な達成」が目標として定められている。その目標を達成するために「環境配慮行動」が重要視されている。環境配慮行動の実施状況についての調査は第四次環境基本計画制定後、毎年行われているが、全体として実施率は不十分であることが分かっている。これは、第四次環境基本計画の目標を達成するために、解決すべき課題であると言える。

環境配慮行動が促進されていない要因として、今井(2008)は、社会的ジレンマを挙げている。社会的ジレンマとは、個人利益と公共利益のいずれかを選択しなければならない状況において、個人利益を優先してしまうことであると言える。また、心理的負担や経済的負担が大きいと、環境配慮行動を避けてしまうと考えられる。例えば、環境保全活動への参加など手間がかかることや環境配慮行動による効果が実感しにくい場合は、心理的負担の大きさが環境配慮行動の阻害要因になると考えられる。また、CO₂削減貢献商品やエコ家電、エコカーを購入することは経済的負担を伴う。環境配慮行動による、経済的負担を抑えるために、さまざまな補助金制度が存在する。しかし、エコカーや燃料電池など補助金の対象が多種であるため、莫大な財源が必要になるという問題点がある。従って、現行の施策で経済的負担を抑えるのは困難であり、かつ持続的な効果があるとは言えない。

また、国民の環境配慮行動促進のために、環境省主体で、様々な団体が連携し、環境に配慮した選択を促す COOL CHOICE を呼びかけている。COOL CHOICE の取り組みとして、省エネ性能に優れた照明機器への切り替え推進を行う「あかり未来計画」。また、公共交通機関やエコカーの利用などを推進する「smart move」、「クールビズ・ウォームビズ」などがある。しかし、そのような取り組みがあるにも関わらず、環境配慮行動の実施率は不十分である。そこで、心理的負担や補助金制度で挙げられた経済的負担を解消するものとして、我々は社会関係資本に着目した。社会関係資本については後述するが、社会関係資本は経済的負担が比較的小さい。また、社会関係資本を高めることで、楽しく、自発的に環境配慮行動をすることができ、心理的負担を減らすことができるという利点がある。加えて、社会関係資本が高まれば地域内の公共利益を大事にする人が増え、社会的ジレンマの解決にも結びつく可能性があるのではないだろうか。以上より、我々は、社会関係資本というキーワードに着目し、環境配慮行動を自発的に促すことができるような政策を模索していく。

本稿の章立てとして、第 1 章では、環境配慮行動の実施状況、環境配慮行動の阻害要因、社会関係資本について述べる。第 2 章では、環境意識・行動と社会関係資本に関する先行研究、社会関係資本を高める要因に関する先行研究について整理し、本稿の独自性について述べる。第 3 章では分析について述べ、環境配慮行動の促進に対する社会関係資本の有効性を検証する。同時に、社会関係資本の決定要因を探り、社会関係資本を高める要因を明らかにする。第 4 章では政策提言について述べる。我々は、分析結果を踏まえ市町村へ

聞き取り調査を行った。そこで得たヒントをもとに、社会関係資本を高め、環境配慮行動を促進できるような政策を提言する。

第1章 現状分析・問題意識

第1節 環境配慮行動の実施状況

近年、様々な環境問題が発生している。このような状況下で、平成24年に環境省は第四次環境基本計画を制定した。計画の核として、「低炭素・循環・自然共生の各分野の統合的な達成」という目標が定められ、達成するために「環境配慮行動」が重要視されている。

竹橋（2008）によれば、環境配慮行動とは、節電・公共交通の利用・マイバックの使用・故障物品の修理・再生製品の購入などである。すなわち、環境負荷の小さい行動を選択することだと言えるだろう。図1の平成28年度環境にやさしいライフスタイル実態調査報告書によると、環境配慮行動に取り組んでいる人の割合は、「日常生活における節電等の省エネに努める」で87.4%、「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出す」で92.3%、「日常生活においてできるだけごみを出さないようにする」で76.8%、「日常生活における節水」で79.9%、「油や食べかすを排水口から流さない」で79.2%であり、以上5項目に関しては、比較的实施率は高いと言える。一方、当調査で環境配慮行動の指標としているものは14項目あり、先ほど述べた5項目を除く9項目は実施率が不十分であると言える。それら9項目に関しては、「物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択する」で36.4%、「地域における環境保全のための取組に参加する」で37%、「環境に対して良いと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりする」で27.2%、「講習会等で得た環境保全に関することを実践する」で20.9%、「体験型の環境教育・環境学習活動に参加する」で16.3%、「旬のもの、地のものを選んで購入する」で68.3%、「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユースにまわす」で46.3%、「運転の際には、不必要なアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」で62.0%、「買い物の時は、製品に含まれる化学物質を成分表示で確認して選んでいる」で43.8%である。以上の9項目と、実施率の高かった5項目とを比較すると、「手間がどれだけかかるか」ということが影響しているように感じられる。また、平成24年度から平成28年度にかけて、順調に実施率が上がっているのは、「日常生活における節電等の省エネに努める」・「旬のもの、地のものを選んで購入する」・「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出す」・「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユースにまわす」の4項目のみであり、残りの項目に関しては横ばいもしくは、増減を繰り返している。以上のことを踏まえると、環境配慮行動の重要性は高いものの、実施率としては十分でないという現状が見えてくる。

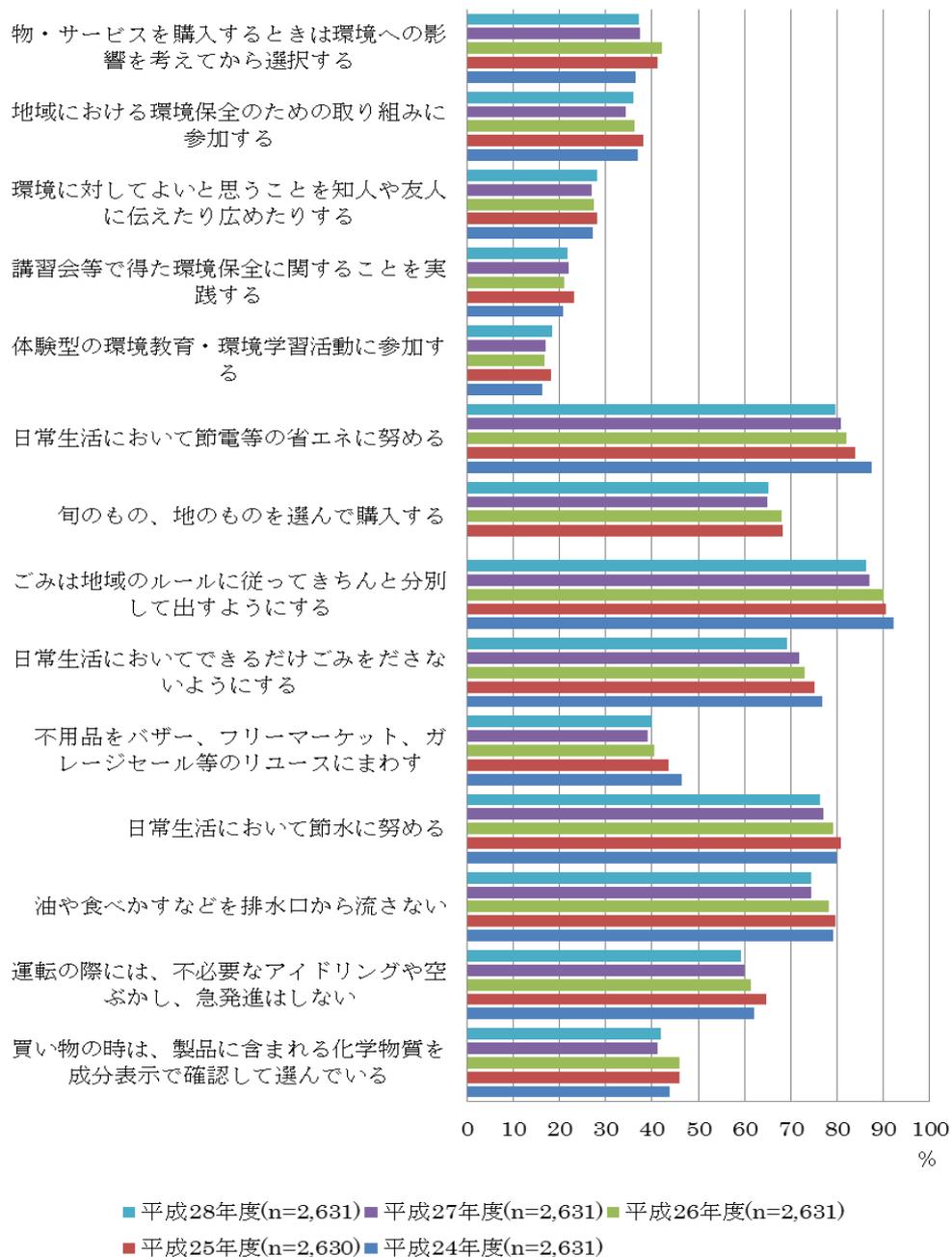


図 1 環境配慮行動の実施状況
 環境省 環境にやさしいライフスタイル実態調査報告書(2016)より筆者作成

第2節 環境配慮行動の阻害要因

では、どのように環境配慮行動を促していけばいいのか。今井（2008）は、環境配慮行動が促進されない理由として「社会的ジレンマ」という概念を挙げている。社会的ジレンマとは、個人利益と公共利益のいずれかを選択しなければならない状況において、個人利益を優先してしまうことである。環境配慮行動は、環境問題の改善につながるため、公共利益に関連する行動であると考えられる。しかし、個人が自己の利益を優先することで環境配慮行動が阻害されてしまう。すなわち、環境配慮行動における社会的ジレンマとは、個人が利己的な行動をとり、環境配慮行動を避けてしまうということであると言えるだろう。個人利益を優先するようになると、環境保全活動への参加など手間がかかることや環境配慮行動による効果が実感しにくい場合は、心理的負担の大きさが環境配慮行動実施の阻害要因になると考えられる。加えて、環境配慮行動によって電気代や燃料費の削減が可能で、個人利益に結びつくような場合でも、初期のコストが大きい場合や、費用削減効果が不明瞭な場合に経済的負担感が阻害要因になると考えられる。また、CO2削減貢献商品やエコ家電、エコカーを購入することは経済的負担伴う。

そこで、環境配慮行動の経済的負担を抑えるために、様々な補助金制度が存在する。しかし、エコカーや燃料電池など補助金の対象が多種であるため、幅広い環境配慮製品の導入をカバーできる一方、莫大な財源が必要だという問題点がある。また、経済的インセンティブだけでは、補助金制度が廃止されたときに、環境配慮製品を買わなくなってしまう可能性がある。従って、現行の施策で経済的負担を抑えるのは困難であり、かつ持続的な効果があるとは言いにくい。

また、環境配慮行動促進のために環境省が主体となって、政府・産業界・労働界・自治体・NPO等が連携して国民にCOOL CHOICEを呼びかけている。COOL CHOICEとは、クールビズ・ウォームビズの実施、CO2削減貢献商品の購入、公共交通機関を利用するといった環境に配慮した選択を促すことである。以下で具体的なCOOL CHOICEの取り組みを紹介する。

一つ目の取り組みとして、あかり未来計画が実施されている。この計画は、環境省及び経済産業省が主体となって省エネ性能に優れた照明機器への切り替え推進を行うものである。二つ目の取り組みに、smart moveがある。smart moveとは、日々の生活の「移動」を見直し、公共交通機関やエコカーの利用などを推進する取り組みである。利用しやすい交通ネットワークの提供や地域に密着した無料巡回バスを導入する自治体も存在する。三つ目の取り組みに、クールビズ・ウォームビズがある。クールビズとは、冷房の設定温度28℃で快適に過ごすための取り組みのことである。COOL CHOICEではさらなるクールビズ推進のため、公共施設を利用し涼をシェアするクールシェアを提案している。ウォームビズについてもクールビズと同様の取り組みがなされている。しかし、2016年8月の内閣府「地球温暖化対策に関する世論調査」によるとCOOL CHOICEの認知度は28.1%であり、認知度が低いいため、上記の取り組みが十分に行われているとはいえないのではないだろうか。

第3節 社会関係資本

そこで、心理的負担や経済的負担を解消する手法として、我々は社会関係資本に着目した。社会関係資本については後述するが、社会関係資本は経済的負担が比較的小さい。また、社会関係資本を高めることで、楽しく、自発的に環境配慮行動をすることができ、心理的負担もなくすることができるという利点がある。加えて、社会関係資本が高まれば地域内の公共利益を考え、社会的ジレンマの解消にも結びつく可能性があるのではないだろうか。

では、社会関係資本とはどのようなものか。社会関係資本とは Putnam (1993) によれば、「協調的行動を容易にすることにより、社会の効率を改善しうる信頼、規範、ネットワークなどの社会的仕組みの特徴」である。また、稲葉 (2008) によれば、「平たくいえば、『信頼』、『情けは人のためならず』、『持ちつ持たれつ』、『お互い様』といった互酬性の規範、そして人やグループの間の絆」である。より簡潔に、抽象的に表現するならば、「人と人とのつながり」と言えるのではないだろうか。また、社会関係資本が高い社会では、そうでないところと比較すると、生涯未婚率・失業率・要介護者の割合・生活保護者の割合は低く、合計特殊出生率・子育て女性の就業促進・後期高齢者医療制度の充実割合は高い（滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所共同研究地域活動のメカニズムと活性化に関する研究会報告書 2016）。このことから、社会関係資本を高めることで、社会的ジレンマが解消され、環境配慮行動を促進できるだけでなく、その他の社会的な問題の解決にも役立つと言えそうである。従って、社会関係資本を高める必要性は高い。実際、社会関係資本という言葉こそ使われていないものの、第四次環境基本計画においても、「持続可能な社会を実現するための地域づくり・人づくり、基盤整備の推進」として、重点的に取り組む課題の一つとされている。

我々は、社会関係資本を高めれば、環境配慮行動が促進されるという仮定の下、人々のつながりの強さの現状と、つながりを強めるのに有効な政策を探るために、尾張旭市役所企画部企画課企画係、名古屋市市民経済局地域振興課、名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課、長久手市くらし文化部たつせがある課²、あま市企画財政部を訪問し、聞き取り調査を行った。その結果、人々のつながりが希薄化している地域が多いことが分かった。その原因として、核家族、単身世帯の増加、転入してきた人々が地域の人との関わりを持ちにくいことが挙げられた。それを解決するために、市民同士の関わりを増やす政策が各自治体にて実施されている。しかし、聞き取り調査の結果、自治体加入率の減少や地域の担い手不足など問題点があることが分かった。従って、社会関係資本を高めるのに効果的な政策の必要性は高いと言えるだろう。

² 立場を失う、居場所がないという意味の「立つ瀬がない」という言葉から作られた造語。人々に立場、居場所を与えるという意味を込め、長久手市によって名付けられた。

第2章 先行研究及び本稿の独自性

第1節 環境意識・行動と社会関係資本に関する先行研究

鶴見ら(2011)は生物多様性保全に関する環境意識の決定要因を、操作変数を用いた一般化モーメント法によって分析し明らかにしている。データは、日本国内の7231世帯を対象とし、2010年2月17日から20日に実施したWEBでのアンケートが用いられている。この研究では、環境意識の構造が複雑で変化しやすいことを考慮し、経済的要因、社会・人口統計上の条件、経済的な条件などをコントロールしている。分析の結果、所得が増加するほど環境意識が高まり、幸福感を持っている人ほど環境意識が高い可能性が示されるとともに、利他的な人は環境意識が高いということが示唆された。ここで言う、利他的な人は他者とのつながりを重視する可能性があり、社会関係資本が充足している人は環境意識が高いのではないだろうかと推測できる。この研究結果から、我々は社会関係資本が充足していると環境配慮行動も促進されるのではないかと仮説をたてた。

Putnam(1993)は、地方分権改革後のイタリアにおいて、北部、南部における州制度のパフォーマンスの不均衡な発達を、社会関係資本にあると仮定し、それを国民投票の投票率、政党による投票、新聞購読率、文化スポーツ団体の充足数と定義し、独自に定義した制度パフォーマンスとの関連で実証している。また、社会関係資本が蓄積されている社会では、社会問題に対して人々の自発的な協力を得られるため、社会的ジレンマに陥ることを防げると述べている。

Videras et al. (2012)は、社会関係資本、特に家族、近隣、同僚とのつながりの強さと環境配慮行動の関係について研究し、2009年のANESパネルデータを使用し、アメリカにおける環境配慮行動と社会関係資本の関係を検証した。コントロール変数には、性別、年齢、教育水準、配偶者の有無、世帯規模、雇用形態を使用しており、ダミー変数としては、持ち家の有無、地域、所得(年間3万5,000ドル以上)を使用している。被説明変数としての環境配慮行動では、環境保護組織への寄付、フェアトレード製品の購入、エネルギー消費抑止、地域で環境問題へ取り組む、環境保護ボランティアへの参加、紙・段ボールのリサイクル、SRI(Socially Responsible Investment)行動を指標として使用している。分析の結果から、家族とのつながりを持つ人は、利他的行動、地域貢献活動への取り組みを行っていること、近隣とのつながりを持つ人は、地域貢献活動、ボランティア、リサイクルへの貢献をしていること、同僚とのつながりを持つ人は、利他的行動、エネルギー消費抑止を行うことが示されている。しかし、社会関係資本によって環境配慮行動は促進されるが、環境規範を持った人との社会関係資本を築くことを前提としている。

加えて、省エネ行動と社会関係資本の関係を検証した研究に丸田ら(2008)がある。この研究では、市民の社会的属性と社会信頼度が省エネ行動に及ぼす影響について示している。

ここでいう省エネ行動とは、市民が社会厚生のために個人の生活を自ら抑制するような自発的な行動とされている。社会的属性と社会信頼度については、2007年に日本国内で1500人にアンケートを実施し、「一般信頼性」「近所づきあい」「実施した省エネ行動」「省エネに配慮する理由」「地域活動」の5項目について調査している。分析の結果、一般信頼性に関しては、57%の人が「ほとんどの人は信頼できる、ある程度の人は信頼できる」としているが、近所づきあいをしている人の割合は36%程度にとどまっていることを示している。省エネ行動に関しては、省エネ行動促進には強制的措置よりも、個人の自主性を重んじて自発的な行動を促す政策が有効であることが示されている。また、省エネ行動と個人属性の関係を分析した結果から、一般信頼性や地域に対する信頼性が高い回答者ほど「クーラーの28℃設定」を実行しているほか、「クーラーの28℃設定」以外の省エネ行動においても同様の傾向がみられることを示している。

第2節 社会関係資本を高める要因に関する先行研究

内閣府国民生活局(2003)によって、ボランティア活動などの市民活動の活性化と、社会関係資本の蓄積は、相互関係にある可能性が明らかにされている。すなわち、市民活動の活性化によって、人々とのつながりが形成されるとともに、社会的信頼や評価を得ることが期待できる。また、それによって、市民活動への理解者、支援者を増やすことで、新たな社会関係資本が形成され、さらなる市民活動の発展が期待できるということを指摘している。また、多様な人との交流を促進する「コミュニケーションのための公共空間の場の提供」という要素を持つことで、新たな社会関係資本を形成するだけでなく、すでに構築された社会関係資本も活性化されるという可能性も指摘されている。長積ら(2006)は、スポーツ振興の活動が継続されることのみでは新たな社会関係資本は生まれず、スポーツ組織や活動に新たなメンバーや活動が加わるといった「新規性」によって、社会関係資本の醸成につながることを示している。Hall(1999)は、イギリスにおいて、高等教育の機会が拡大し、教育システムが変化したことが社会関係資本の欠損を防ぐこととなったことを明らかにしている。すなわち、高い教育水準とコミュニティへの関与との間には正の相関関係があることを示している。Tsung-hsiu Tsai(2008)は、社会関係資本とリサイクル活動の間に正の相関関係があることを示している。また、リサイクル活動は、家族との関係性に加え、地域との関係性が高まることで促進されるということも示しており、リサイクル活動が活発になるほど、社会的関係や信頼性、協調性が高まることも同時に示している。

第3節 本稿の独自性

先行研究では社会関係資本の決定要因についての研究が不十分であり、なおかつ環境配慮行動について、「節電行動」といったように、大まかな定義づけをしている。そこで、

我々は環境配慮行動を多様な観点から15項目に分類し、社会関係資本への影響を検証するとともに、先行研究では不十分である社会関係資本の決定要因を探ることで、「自発的に、楽しく環境配慮行動を促進させる」ための鍵となる要因を検証する。

Videras et al (2012)が行った研究では、社会関係資本が及ぼす環境配慮行動への影響について、人々とのつながりの程度が重要であることを示している。一方で、人々との関係性については触れていない上に、社会関係資本の影響力について、環境規範を持つ個人と関係を持つことに限定している。従って、社会関係資本の要素の中でも、人々とのつながりを持つことによって生まれる「規範」の重要性が示されていると考えられる。

また、丸田ら(2008)の研究により、節電行動の促進において、一般信頼性³、地域に対する信頼性が重要であると示されている。加えて、市民の省エネ行動促進に対して、市民の自主的な行動を促すことがより効果的であると指摘されている。以上の先行研究から、自発的な環境配慮行動への取り組みを促進させる上で、人々との関係性や地域との関係性を深めていき、信頼性を高めていくことが重要であると考えた。また、鶴見ら(2011)によって、環境意識に対して、利他性が重要であると示唆されていることから、人々との関係性、地域への信頼が深まることで、他者のためになる行動、すなわち利他的な行動が促進されると考えられる。そこで、本稿では、「人々との関係性」と「地域に対する信頼性」が環境配慮行動の自発的な取り組みに対する影響を検証するため、家族、友人・知人、地域の人々との関係性の満足度、重要度に焦点をあて、社会関係資本の中の「規範」だけでなく「利他性」にも着目した。さらに、環境配慮行動における地域への信頼の重要性を検証するために、「地域への愛着」を社会関係資本に加えて検証を行う。地域への愛着については、愛着が深まることでその地域への信頼性や帰属意識が高まり、その地域の人々との交流や地域活動への参加が促進され、地域の活性化や人々の関係性の向上に寄与すると考えられる。

また、社会関係資本を高める要因としては、地域活動の活性化、スポーツの振興、リサイクルなどが先行研究で示されている。そのため、これらの活動に対する市政の評価が高まることで、社会関係資本の向上に加え、地域に対する関係性が向上すると考えられることから、本稿では社会関係資本の決定要因として市政評価に着目する。

以上のことから、家族、知人・友人、地域の人々との関係性の重要度・満足度を社会関係資本の指標として使用し、社会関係資本の「利他性」や地域に対する信頼性が環境配慮行動に及ぼす影響を検証していくことを本稿の独自性とする。また、利他性や地域との関係性といった、社会関係資本が及ぼす環境配慮行動への影響と社会関係資本の決定要因を明らかにする。本稿で、様々な項目の環境配慮行動と、地域との関係性を包括的に捉えた社会関係資本の関係性を示すことが出来れば、地域全体の人々の結びつきの強化によって、自発的な環境配慮行動が促進されるという仮説を実証することができる。以上のことから、本研究には独自性があり、環境配慮行動の自発的な取り組みを促す上で有益であると考えられる。

³ ここで言う一般信頼性とは「あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。それとも信頼できないと思いますか」という質問に対して1「ほとんどの人は信頼できる」2「ある程度の人は信頼できる」3「どちらとも言えない」4「ある程度注意する」5「注意するに越したことはない」のいずれかを選択する形式で信頼性を図ったものである。

第3章 分析

第1節 分析モデル

環境配慮行動の実施に際して、社会的ジレンマに加え、個人の環境に対する意識や、周囲の環境が与える影響等、様々な阻害要因が考えられる。本稿では、社会関係資本の充足が環境配慮行動促進に寄与するという仮説の検証を行う。同時に、環境配慮行動促進に寄与すると考えられる社会関係資本の決定要因を探る。そのことを踏まえ、社会関係資本の決定要因として市政評価に着目し、環境配慮行動、社会関係資本を内生変数とした、2段階の構造方程式モデルによって分析を行う。推定式は、(1)式である。(1)式に用いる説明変数は、先行研究を参考にしている。

$$\begin{aligned} Z_i &= \alpha_1 + \gamma_1 V'_{1i} + \gamma_2 W'_i + \gamma_3 X_i + \gamma_4 U_i + \gamma_5 E_i + \varepsilon_1 \\ L_i &= \alpha_2 + \beta_1 V'_{2i} + \beta_2 W'_i + \beta_3 X_i + \beta_4 Z'_i + \beta_5 E_i + \beta_6 F_i + \varepsilon_2 \end{aligned} \quad (1)式$$

上記の(1)式において、 Z_i 、 L_i はそれぞれ個人 i の社会関係資本の充足度、環境配慮行動の実施状況を表す。 V'_{1i} 、 V'_{2i} は社会人口統計に関する合成ベクトルであり、 V'_{1i} は年齢、男性ダミー、大卒ダミー、結婚ダミー、世帯人数、持ち家ダミー、子供ダミー、雇用形態、居住年数を表す変数である。 V'_{2i} は年齢、男性ダミー、結婚ダミー、世帯人数、持ち家ダミー、子供ダミー、雇用形態を表す変数である。 W'_i は性格に関する合成ベクトルであり、性格の5大因子である外向性、協調性、勤勉性、神経症傾向、開放性を含む変数である。 W'_i は、個人 i の性格が回答に与える影響に対するコントロール変数として用いる。 X_i は個人 i の年間世帯収入を表し、 E_i は個人 i の経済心配度を表す。これらの変数は、個人 i の経済的要因をコントロールするための変数として用いる。 U_i は、市政に対する満足度を示す合成ベクトルであり、地域活動・ボランティア支援、公園・街路樹整備、良質な住環境政策、自然環境保護活動、子育て支援の推進、大気・水など環境政策、ゴミ処理・リサイクル、スポーツの振興、学校教育の充実の9項目についての個人 i の満足度を表す。 F_i は、個人 i の環境意識をコントロールするための合成ベクトルであり、オール電化、IHキッチン、太陽光システム、エコキュート、スマートメーター、HEMSの導入状況を表す。 α_1 、 α_2 は定数項を、 γ 、 β は係数を、 ε_1 、 ε_2 は誤差項を表す。

分析に際して、それぞれのモデルの主要な変数の結果は以下のように予測できる。まず、環境配慮行動に対する社会関係資本の影響は、先行研究で示されている(丸田ら, 2008, Videras et al, 2012)ため、統計的に有意に正であると考えられる。次に、社会関係資本

に対する市政評価の影響は、市政に対する満足度が上がることで、その地域の人々との関係性が深まると予測できるため、有意に正であると考えられる。

本稿では、Videras et al(2012)を参考にし、環境規範の平均以上と平均以下でサンプル分けを行うことで、社会関係資本の利他性について、環境規範の影響を検証する。環境規範は、全国の個人の環境配慮行動の実施状況を自治体ごとに把握し、全国の自治体の平均値以上の地域と以下の地域でサンプル分けを行う。また、社会関係資本が環境配慮行動に与える影響をより詳細に把握するために、環境規範のサンプル分けと同様に、社会関係資本についても、自治体の平均値以上、以下でサンプル分けを行う。これらのサンプル分けによって、環境配慮行動を行う上での周囲の環境が与える影響を考慮し、さらに、人々との関係性の重要度、満足度に加え、地域への愛着が及ぼす影響を検証する。そして、より自発的な環境配慮行動を促進できるような政策提言を行う。

第2節 データ

本稿では、2015年10月16日から10月26日と2015年11月16日から12月14日に研究室が独自に行った、日本全国を対象とした大規模なWEBアンケートの回答データを使用する。アンケートの回答者数が197,887であり、未回答、不正回答等の78,634サンプルと、回答者が100人未満の自治体の居住者32,197サンプルを除外したサンプルで分析を行う。データの概要を表1に、全サンプルとサンプル分けの基本統計量を表2、3、4、5、6に示す。

内生変数には、環境配慮行動、社会関係資本を使用する。環境配慮行動は、15項目を使用する。そのうち、「こまめに電気を消す」、「冷蔵庫の開閉時間短縮」、「主電源を切る」、「節電タップの使用」、「電気家計簿」、「クールビズ・ウォームビズの実施」、「エアコンの温度を推奨温度に設定」、「徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用」、「自家発電システムの導入」、「ゴミを減らす」、「エコカー・省エネ製品の買替」、「自然環境保護活動に参加」の12項目は、行っている人を1、それ以外を0とするダミー変数である。「CO₂削減貢献商品の購入」、「手間・お金より環境保護」、「長期間モノを使用する」の3項目は、実施状況について「当てはまる」を5、「まったく当てはまらない」を1とする1~5の値をとる変数である。前者2項目は、5または4を回答した人を1、それ以外を0とするダミー変数である。後者1項目は、「一つの物を5年、10年と使い続けるよりどんどん新しい物に替えていきたい」という項目に対して、1または2を回答した人を1、それ以外を0とするダミー変数である。

社会関係資本は、地域の人との関係性、家族との関係性、知人・友人との関係性に対する満足度と重要度、地域への愛着の7項目を使用する。それぞれの重要度に対して、「大変重要である」を5、「全く重要でない」を1とする1~5の値をとる変数であり、満足度に対しても、「大変満足である」を1、「全く満足でない」を5とする1~5の値をとる変数である。地域への愛着も同様に、「大変愛着がある」を5、「全く愛着がない」を1とする1~5の値をとる変数である。

説明変数として使用するデータは、年齢、男性ダミー、結婚ダミー、大卒ダミー、性格、年間世帯収入、居住年数、持ち家ダミー、子供ダミー、経済心配度、環境配慮製品の導入

状況である。年齢は、回答者の回答時の年齢である。性格は、外向性、協調性、勤勉性、神経症傾向、開放性に関する2つずつの質問に対する回答の平均値であり、1～5の値をとる変数である。また、各性格の項目の値の大きさは、それぞれの性格特性の強さを表している。男性ダミーは、回答者の性別が男性である場合を1、女性である場合を0とするダミー変数である。結婚ダミーは、回答者が結婚している場合を1、そうでない場合を0とするダミー変数である。大卒ダミーは、最終学歴が大学卒、大学院修士卒、大学院博士卒の人を1、それ以外を0とするダミー変数である。年間世帯収入は、回答者の世帯の1年間の税込み年収であり、それぞれの選択肢の平均値を用いる。居住年数は、3年未満を基準とし、5年未満、10年未満、20年未満、30年未満、40年未満、40年以上の7項目に対して、回答した人を1、それ以外を0とするダミー変数である。持ち家ダミーは、回答者の居住形態に関して、「持ち家・一戸建て」、「持ち家・マンション」、「持ち家・アパート」と回答した人を1、それ以外を0とするダミー変数である。子供ダミーは、子供がいる人を1、それ以外を0とするダミー変数である。世帯人数は、自分を含め1人から10人までの中で回答する形式になっている。経済心配度は、ストレス要因に関して「家計の経済状況」と回答した人を1、それ以外を0とするダミー変数である。環境配慮製品の導入状況は、6項目についてそれぞれ導入している人を1、それ以外を0とするダミー変数である。

表1 データの概要

調査項目	概要
外交性	質問文「以下のことは、あなた自身に当てはまると思えますか。」 ・活発・外交的 「全くそうは思わない」が1、「強くそう思う」が5。(1～5) ・ひかえめ・おとなしい 「全くそうは思わない」が1、「強くそう思う」が5。(1～5) 上2つの平均を使用
協調性	質問文「以下のことは、あなた自身に当てはまると思えますか。」 ・批判的・もめごとを起こしやすい 「全くそうは思わない」が5、「強くそう思う」が1。(1～5) ・人に気がつかう・あたたかい 「全くそうは思わない」が1、「強くそう思う」が5。(1～5) 上2つの平均を使用
勤勉性	質問文「以下のことは、あなた自身に当てはまると思えますか。」 ・しっかりしている・自分に厳しい 「全くそうは思わない」が1、「強くそう思う」が5。(1～5) ・だらしない・不注意 「全くそうは思わない」が5、「強くそう思う」が1。(1～5) 上2つの平均を使用
神経性	質問文「以下のことは、あなた自身に当てはまると思えますか。」 ・心配性・うろたえやすい 「全くそうは思わない」が1、「強くそう思う」が5。(1～5) ・冷静・気分が安定している 「全くそうは思わない」が5、「強くそう思う」が1。(1～5) 上2つの平均を使用
開放性	質問文「以下のことは、あなた自身に当てはまると思えますか。」 ・新しいことが好きで、複雑な考えを持っている 「全くそうは思わない」が1、「強くそう思う」が5。(1～5) ・平凡・発想力に欠けている 「全くそうは思わない」が5、「強くそう思う」が1。(1～5) 上2つの平均を使用
年齢	回答時の年齢
婚姻状況	回答時に結婚している場合は1、それ以外を0とするダミー変数。
性別	男性を1、女性を0とするダミー変数。
年間世帯収入	選択肢：1. 200万円未満→100万円、2. 200～300万円未満→250万円、3. 300～400万円未満→350万円、4. 400～500万円未満→450万円 5. 500～600万円未満→550万円、6. 600～700万円未満→650万円、7. 700万円～800万円未満→750万円、 8. 800～900万円未満→850万円、9. 900～1,000万円未満→950万円、10. 1,000～1,500万円未満→1,250万円、 11. 1,500～2,000万円未満→1,750万円、12. 2,000～3,000万円未満→2,500万円、13. 3,000万円以上→3,000万円
居住年数	質問文：「あなたの居住年数を教えてください。」 選択肢：1. 3年未満、2. 5年未満、3. 10年未満、4. 20年未満、5. 30年未満、6. 40年未満、7. 40年以上 1～7それぞれのダミー変数（基準は居住年数3年未満）。
持ち家ダミー	持ち家・一戸建て、持ち家・マンション、持ち家・アパートを1、それ以外を0とするダミー変数。
学歴	大学卒、大学院修士卒、大学院博士卒を1、それ以外を0とするダミー変数。
子供ダミー	質問文：「あなたのお宅に同居しているご家族を教えてください。」(いくつでも) あなたの子ども(男性)(義理も含む)、あなたの子ども(女性)(義理も含む)を選んだ人を1、それ以外を0とするダミー変数
地域への愛着	質問文：「あなたは自分の住んでいる地域コミュニティにどの程度愛着をもっていますか。」 「大変愛着がある」が5、「全く愛着がない」が1。(1～5)
経済心配度	質問文「あなたのストレス要因としてあてはまるものをお選びください。」(いくつでも) 「金銭面」を1、それ以外を0とするダミー変数

表1 データの概要 (続き)

地域の人との関係性に対する満足度	質問文「あなたの生活において、以下の項目の満足度をお答えください。」 地域の人との関係：「全く満足していない」が1、「大変満足している」が5。(1～5)
家族との関係性に対する満足度	質問文「あなたの生活において、以下の項目の満足度をお答えください。」 家族との関係：「全く満足していない」が1、「大変満足している」が5。(1～5)
友人・知人との関係性に対する満足度	質問文「あなたの生活において、以下の項目の満足度をお答えください。」 友人・知人との関係：「全く満足していない」が1、「大変満足している」が5。(1～5)
地域の人との関係性に対する重要度	質問文「あなたの生活において、以下の項目の重要度をお答えください。」 地域の人との関係：「全く重要でない」が1、「大変重要である」が5。(1～5)
家族との関係性に対する重要度	質問文「あなたの生活において、以下の項目の重要度をお答えください。」 家族との関係：「全く重要でない」が1、「大変重要である」が5。(1～5)
友人・知人との関係性に対する重要度	質問文「あなたの生活において、以下の項目の重要度をお答えください。」 友人・知人との関係：「全く重要でない」が1、「大変重要である」が5。(1～5)
雇用形態	質問文「あなたのご職業をお答えください。」 1.各種学校・専門学生・短大生、2.大学生・大学院生、3.上記以外の学生、4.お勤め(正社員) 5.お勤め(契約社員など)、6.お勤め(派遣社員)、7.お勤め(パート・アルバイト)、 8.会社経営者、9.政府職員・公務員、10.個人事業主、11.専門職(医師、弁護士、教授など) それぞれの回答に対するダミー変数(1.各種学校、専門学生を基準)。
世帯人数	質問文「同居しているご家族の人数を教えてください。(あなたご自身も人数を含めてお考えください。)」 1人、2人、3人、4人、5人、6人、7人、8人、9人、10人以上
環境配慮行動の実施	質問文「気候変動による災害(洪水・ゲリラ豪雨・干ばつ・大気汚染などは含み、地震、津波、噴火などの災害は含まない)対策に関して、あなたが過去5年間で、普段行っている、または行った行動を全てお選びください。(いくつでも)1.クールビズ・ウォームビズを実施している、2.自宅で冷房・暖房の温度調節に関して、推奨されている温度に設定する、3.徒歩・自転車、または公共交通機関を積極的に利用する、4.自家発電システム(太陽光発電システムなど)の設置、5.ごみを減らす、6.エコカー・省エネ電化製品に買い替えた、7.自然環境保全活動(植林など)に参加した 行っていると回答した人を1、それ以外を0とするダミー変数。
節電行動	質問文「あなたはご自宅の節電・電気料金のために実施していることはありますか」 1.こまめに電気を消す、2.冷蔵庫の開閉時間を短くする、3.主電源を切る、4.節電タップの利用、5.電気家計簿記録 それぞれ行っていると回答した人を1、それ以外を0とするダミー変数。
環境配慮行動の実施程度	質問文「以下のそれぞれの項目はあなたにどの程度あてはまりますか」 1.二酸化炭素削減に貢献する商品を買っている、2.手間やお金がかかっても環境保護に貢献したい 3.1つのものを5年、10年使うよりどんどん新しいものに変えていきたい 「あてはまらない」が1で、「あてはまる」が5(1～5)の変数の中で、5、4を回答した人を1、それ以外を0とするダミー変数。 3.1つのものを5年、10年使うよりどんどん新しいものに変えていきたい という項目については、1または2を該当した人を1、それ以外を0とするダミー変数。
導入している環境配慮製品	質問文「あなたのご自宅に設置・導入されている機器・システムをお答えください」 1.オール電化、2.IHキッチン、3.太陽光発電システム、4.エコキュート、5.スマートメーター、6.HEMS、 それぞれ回答した人を1、回答していない人を0とするダミー変数。
市政評価に対する満足度	質問文「市政評価に関する以下の項目の満足度をお答えください」 1.地域活動・ボランティア支援、2.公園・街路樹整備、3.良質な住環境政策、4.学校教育の充実、5.子育て支援の推進、 6.自然環境保護活動、7.ゴミ処理・リサイクル、8.スポーツの振興、9.大気、水など環境政策 「全く重要でない」が1、「大変重要である」が5。(1～5)

表2 基本統計量 全サンプル

	全サンプル				
	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
外向性	87,056	2.9188	0.8577	1	5
協調性	87,056	3.5245	0.6652	1	5
勤勉性	87,056	3.2073	0.7734	1	5
神経症傾向	87,056	2.9653	0.7620	1	5
開放性	87,056	3.0393	0.7285	1	5
経済心配度	87,056	0.2874	0.4526	0	1
持ち家ダミー	87,056	0.6834	0.4651	0	1
子供ダミー	87,056	0.4340	0.4956	0	1
世帯人数	87,056	2.7285	1.3398	1	10
年間世帯収入	87,056	681.3626	447.6456	150	3000
結婚ダミー	87,056	0.7030	0.4569	0	1
年齢	87,056	49.2527	11.4948	15	99
男性ダミー	87,056	0.6231	0.4846	0	1
大卒ダミー	87,056	0.5143	0.4998	0	1
居住年数5年未満	87,056	0.1200	0.3250	0	1
居住年数10年未満	87,056	0.1102	0.3131	0	1
居住年数20年未満	87,056	0.1962	0.3972	0	1
居住年数30年未満	87,056	0.2853	0.4516	0	1
居住年数40年未満	87,056	0.1361	0.3429	0	1
居住年数40年以上	87,056	0.0604	0.2382	0	1
大学生・大学院生	87,056	0.0053	0.0727	0	1
上記以外の学生	87,056	0.0005	0.0232	0	1
お勤め（正社員）	87,056	0.3964	0.4891	0	1
お勤め（契約社員など）	87,056	0.0445	0.2061	0	1
お勤め（派遣社員）	87,056	0.2001	0.1400	0	1
お勤め（パート・アルバイト）	87,056	0.1053	0.3070	0	1
会社経営者	87,056	0.0240	0.1530	0	1
政府職員・公務員	87,056	0.0485	0.2148	0	1
個人事業主	87,056	0.0691	0.2536	0	1
専門職（医師、弁護士、教授など）	87,056	0.0280	0.1650	0	1
専業主婦・主夫	87,056	0.1224	0.3278	0	1
年金受給者	87,056	0.0674	0.2490	0	1
無職（求職していない）	87,056	0.0541	0.2262	0	1
オール電化	87,056	0.1410	0.3480	0	1
IHキッチン	87,056	0.1862	0.3893	0	1
太陽光システム	87,056	0.0713	0.2573	0	1
エコキュート	87,056	0.1234	0.3289	0	1
ガスエンジン給湯器	87,056	0.0171	0.1296	0	1
燃料電池システム	87,056	0.0064	0.0797	0	1
自家発電システム	87,056	0.0044	0.0664	0	1
スマートメーター	87,056	0.0098	0.0983	0	1
HEMS	87,056	0.0104	0.1015	0	1
クールビズ・ウォームビズの実施	87,056	0.2552	0.4360	0	1
エアコンの温度を推奨温度に設定	87,056	0.3121	0.4633	0	1
徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用	87,056	0.2873	0.4525	0	1
自家発電システムの導入	87,056	0.0551	0.2281	0	1
エコカー・省エネ製品の買替	87,056	0.1097	0.3126	0	1
自然環境保護活動に参加	87,056	0.0139	0.1172	0	1
こまめに電気を消す	87,056	0.7246	0.4467	0	1
冷蔵庫の開閉時間短縮	87,056	0.2513	0.4338	0	1
主電源を切る	87,056	0.2162	0.4117	0	1
節電タップの使用	87,056	0.1702	0.3758	0	1
電気家計簿	87,056	0.0635	0.2438	0	1
手間・お金より環境保護	87,056	0.2035	0.4026	0	1
CO ₂ 削減貢献商品の購入	87,056	0.1037	0.3048	0	1
長期間モノを使用する	87,056	0.5282	0.4992	0	1
ゴミを減らす	87,056	0.3410	0.4740	0	1
市政評価（地域活動・ボランティア支援）	87,056	3.1489	0.6464	1	5
市政評価（良質な住環境政策）	87,056	3.1781	0.7410	1	5
市政評価（学校教育の充実）	87,056	3.1225	0.7173	1	5
市政評価（子育て支援の推進）	87,056	3.0029	0.7300	1	5
市政評価（自然環境保護活動）	87,056	3.1763	0.6927	1	5
市政評価（ゴミ処理・リサイクル）	87,056	3.2979	0.7681	1	5
市政評価（大気・水など環境政策）	87,056	3.1061	0.6703	1	5
市政評価（公園・街路樹整備）	87,056	3.1844	0.7802	1	5
市政評価（スポーツの振興）	87,056	3.1285	0.6596	1	5
社会関係資本	87,056	3.6336	0.5487	1	5
市区町村別環境規範	87,056	0.1586	0.0135	3.4528	3.7958
市区町村別社会関係資本	87,056	3.6447	0.0488	0.1175	0.2186

表3 基本統計量 環境規範平均以上

環境規範平均以上					
	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
外向性	43,850	2.9273	0.8562	1	5
協調性	43,850	3.5330	0.6646	1	5
勤勉性	43,850	3.2358	0.7727	1	5
神経症傾向	43,850	2.9503	0.7666	1	5
開放性	43,850	3.0462	0.7305	1	5
経済心配度	43,850	0.2823	0.4501	0	1
持ち家ダミー	43,850	0.7029	0.4570	0	1
子供ダミー	43,850	0.4455	0.4970	0	1
世帯人数	43,850	2.7307	1.3056	1	10
年間世帯収入	43,850	702.3341	452.8867	150	3,000
結婚ダミー	43,850	0.7181	0.4499	0	1
年齢	43,850	49.8946	11.6453	15	88
男性ダミー	43,850	0.6307	0.4826	0	1
大卒ダミー	43,850	0.5486	0.4976	0	1
居住年数5年未満	43,850	0.1146	0.3185	0	1
居住年数10年未満	43,850	0.1079	0.3102	0	1
居住年数20年未満	43,850	0.1968	0.3976	0	1
居住年数30年未満	43,850	0.2973	0.4571	0	1
居住年数40年未満	43,850	0.1389	0.3459	0	1
居住年数40年以上	43,850	0.0605	0.2385	0	1
大学生・大学院生	43,850	0.0058	0.0757	0	1
上記以外の学生	43,850	0.0004	0.0208	0	1
お勤め(正社員)	43,850	0.3926	0.4883	0	1
お勤め(契約社員など)	43,850	0.0439	0.2048	0	1
お勤め(派遣社員)	43,850	0.0206	0.1422	0	1
お勤め(パート・アルバイト)	43,850	0.1035	0.3046	0	1
会社経営者	43,850	0.0226	0.1486	0	1
政府職員・公務員	43,850	0.0442	0.2054	0	1
個人事業主	43,850	0.0661	0.2485	0	1
専門職(医師、弁護士、教授など)	43,850	0.0258	0.1587	0	1
専業主婦・主夫	43,850	0.1276	0.3336	0	1
年金受給者	43,850	0.0760	0.2650	0	1
無職(求職していない)	43,850	0.0553	0.2285	0	1
オール電化	43,850	0.1186	0.3233	0	1
IHキッチン	43,850	0.1621	0.3686	0	1
太陽光システム	43,850	0.0696	0.2544	0	1
エコキュート	43,850	0.1143	0.3181	0	1
ガスエンジン給湯器	43,850	0.0184	0.1346	0	1
燃料電池システム	43,850	0.0077	0.0876	0	1
自家発電システム	43,850	0.0040	0.0634	0	1
スマートメーター	43,850	0.0112	0.1052	0	1
HEMS	43,850	0.0114	0.1063	0	1
クールビズ・ウォームビズの実施	43,850	0.2744	0.4462	0	1
エアコンの温度を推奨温度に設定	43,850	0.3357	0.4723	0	1
徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用	43,850	0.3189	0.4660	0	1
自家発電システムの導入	43,850	0.0555	0.2289	0	1
エコカー・省エネ製品の買替	43,850	0.1153	0.3194	0	1
自然環境保護活動に参加	43,850	0.0147	0.1202	0	1
こまめに電気を消す	43,850	0.7378	0.4398	0	1
冷蔵庫の開閉時間短縮	43,850	0.2593	0.4383	0	1
主電源を切る	43,850	0.2216	0.4153	0	1
節電タップの使用	43,850	0.1722	0.3776	0	1
電気家計簿	43,850	0.0725	0.2593	0	1
手間・お金より環境保護	43,850	0.2170	0.4122	0	1
CO ₂ 削減貢献商品の購入	43,850	0.1120	0.3154	0	1
長期間モノを使用する	43,850	0.5359	0.4987	0	1
ゴミを減らす	43,850	0.3564	0.4790	0	1
市政評価(地域活動・ボランティア支援)	43,850	3.1620	0.6424	1	5
市政評価(良質な住環境政策)	43,850	3.2078	0.7429	1	5
市政評価(学校教育の充実)	43,850	3.1447	0.7155	1	5
市政評価(子育て支援の推進)	43,850	3.0151	0.7281	1	5
市政評価(自然環境保護活動)	43,850	3.2054	0.6966	1	5
市政評価(ゴミ処理・リサイクル)	43,850	3.3203	0.7754	1	5
市政評価(大気・水など環境政策)	43,850	3.1199	0.6665	1	5
市政評価(公園・街路樹整備)	43,850	3.2122	0.7828	1	5
市政評価(スポーツの振興)	43,850	3.1434	0.6559	1	5
社会関係資本	43,850	3.6464	0.5481	1	5
市区町村別環境規範	43,850	0.1693	0.0087	0.1581	0.2186
市区町村別社会関係資本	43,850	3.6569	0.0456	3.5414	3.7925

表4 基本統計量 環境規範平均以下

環境規範平均以下					
	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
外向性	43,206	2.9102	0.8593	1	5
協調性	43,206	3.5160	0.6657	1	5
勤勉性	43,206	3.1784	0.7731	1	5
神経症傾向	43,206	2.9805	0.7570	1	5
開放性	43,206	3.0324	0.7264	1	5
経済心配度	43,206	0.2926	0.4549	0	1
持ち家ダミー	43,206	0.6637	0.4725	0	1
子供ダミー	43,206	0.4224	0.4940	0	1
世帯人数	43,206	2.7262	1.3737	1	10
年間世帯収入	43,206	660.0785	441.2501	150	3,000
結婚ダミー	43,206	0.6876	0.4635	0	1
年齢	43,206	48.6012	11.3029	15	99
男性ダミー	43,206	0.6154	0.4865	0	1
大卒ダミー	43,206	0.4796	0.4996	0	1
居住年数5年未満	43,206	0.1256	0.3314	0	1
居住年数10年未満	43,206	0.1125	0.3160	0	1
居住年数20年未満	43,206	0.1957	0.3967	0	1
居住年数30年未満	43,206	0.2731	0.4456	0	1
居住年数40年未満	43,206	0.1333	0.3399	0	1
居住年数40年以上	43,206	0.0603	0.2380	0	1
大学生・大学院生	43,206	0.0048	0.0694	0	1
上記以外の学生	43,206	0.0006	0.0254	0	1
お勤め(正社員)	43,206	0.4002	0.4899	0	1
お勤め(契約社員など)	43,206	0.0451	0.2074	0	1
お勤め(派遣社員)	43,206	0.0194	0.1378	0	1
お勤め(パート・アルバイト)	43,206	0.1072	0.3094	0	1
会社経営者	43,206	0.0254	0.1574	0	1
政府職員・公務員	43,206	0.0529	0.2239	0	1
個人事業主	43,206	0.0721	0.2586	0	1
専門職(医師、弁護士、教授など)	43,206	0.0302	0.1712	0	1
専業主婦・主夫	43,206	0.1172	0.3217	0	1
年金受給者	43,206	0.0567	0.2312	0	1
無職(求職していない)	43,206	0.0529	0.2239	0	1
オール電化	43,206	0.1638	0.3701	0	1
IHキッチン	43,206	0.2106	0.4077	0	1
太陽光システム	43,206	0.0731	0.2603	0	1
エコキュート	43,206	0.1327	0.3393	0	1
ガスエンジン給湯器	43,206	0.0157	0.1243	0	1
燃料電池システム	43,206	0.0050	0.0707	0	1
自家発電システム	43,206	0.0048	0.0694	0	1
スマートメーター	43,206	0.0083	0.0908	0	1
HEMS	43,206	0.0094	0.0964	0	1
クールビズ・ウォームビズの実施	43,206	0.2358	0.4245	0	1
エアコンの温度を推奨温度に設定	43,206	0.2880	0.4528	0	1
徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用	43,206	0.2554	0.4361	0	1
自家発電システムの導入	43,206	0.0547	0.2274	0	1
エコカー・省エネ製品の買替	43,206	0.1041	0.3053	0	1
自然環境保護活動に参加	43,206	0.0132	0.1140	0	1
こまめに電気を消す	43,206	0.7112	0.4532	0	1
冷蔵庫の開閉時間短縮	43,206	0.2433	0.4291	0	1
主電源を切る	43,206	0.2108	0.4079	0	1
節電タップの使用	43,206	0.1681	0.3740	0	1
電気家計簿	43,206	0.0543	0.2266	0	1
手間・お金より環境保護	43,206	0.1898	0.3922	0	1
CO ₂ 削減貢献商品の購入	43,206	0.0951	0.2934	0	1
長期間モノを使用する	43,206	0.5204	0.4996	0	1
ゴミを減らす	43,206	0.3253	0.4685	0	1
市政評価(地域活動・ボランティア支援)	43,206	3.1356	0.6501	1	5
市政評価(良質な住環境政策)	43,206	3.1479	0.7379	1	5
市政評価(学校教育の充実)	43,206	3.0999	0.7184	1	5
市政評価(子育て支援の推進)	43,206	2.9905	0.7317	1	5
市政評価(自然環境保護活動)	43,206	3.1467	0.6875	1	5
市政評価(ゴミ処理・リサイクル)	43,206	3.2753	0.7600	1	5
市政評価(大気・水など環境政策)	43,206	3.0921	0.6739	1	5
市政評価(公園・街路樹整備)	43,206	3.1562	0.7766	1	5
市政評価(スポーツの振興)	43,206	3.1134	0.6630	1	5
社会関係資本	43,206	3.6205	0.5490	1	5
市区町村別環境規範	43,206	0.1478	0.0074	0.1175	0.1580
市区町村別社会関係資本	43,206	3.6324	0.0488	3.4528	3.7958

表5 基本統計量 社会関係資本平均以上

	社会関係資本平均以上				
	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
外向性	43,877	2.9255	0.8559	1	5
協調性	43,877	3.5347	0.6604	1	5
勤勉性	43,877	3.2208	0.7696	1	5
神経症傾向	43,877	2.9541	0.7605	1	5
開放性	43,877	3.0459	0.7268	1	5
経済心配度	43,877	0.2808	0.4494	0	1
持ち家ダミー	43,877	0.7069	0.4552	0	1
子供ダミー	43,877	0.4521	0.4977	0	1
世帯人数	43,877	2.7848	1.3272	1	10
年間世帯収入	43,877	693.2653	451.9334	150	3,000
結婚ダミー	43,877	0.7271	0.4454	0	1
年齢	43,877	49.5967	11.5767	15	88
男性ダミー	43,877	0.6238	0.4844	0	1
大卒ダミー	43,877	0.5290	0.4992	0	1
居住年数5年未満	43,877	0.1164	0.3207	0	1
居住年数10年未満	43,877	0.1044	0.3057	0	1
居住年数20年未満	43,877	0.1966	0.3974	0	1
居住年数30年未満	43,877	0.2873	0.4525	0	1
居住年数40年未満	43,877	0.1413	0.3483	0	1
居住年数40年以上	43,877	0.0646	0.2458	0	1
大学生・大学院生	43,877	0.0052	0.0716	0	1
上記以外の学生	43,877	0.0006	0.0243	0	1
お勤め(正社員)	43,877	0.3864	0.4869	0	1
お勤め(契約社員など)	43,877	0.0424	0.2015	0	1
お勤め(派遣社員)	43,877	0.0178	0.1324	0	1
お勤め(パート・アルバイト)	43,877	0.1053	0.3070	0	1
会社経営者	43,877	0.0238	0.1526	0	1
政府職員・公務員	43,877	0.0501	0.2181	0	1
個人事業主	43,877	0.0699	0.2551	0	1
専門職(医師、弁護士、教授など)	43,877	0.0281	0.1653	0	1
専業主婦・主夫	43,877	0.1287	0.3348	0	1
年金受給者	43,877	0.0722	0.2587	0	1
無職(求職していない)	43,877	0.0532	0.2245	0	1
オール電化	43,877	0.1585	0.3652	0	1
IHキッチン	43,877	0.2003	0.4002	0	1
太陽光システム	43,877	0.0824	0.2750	0	1
エコキュート	43,877	0.1393	0.3463	0	1
ガスエンジン給湯器	43,877	0.0201	0.1402	0	1
燃料電池システム	43,877	0.0075	0.0865	0	1
自家発電システム	43,877	0.0044	0.0665	0	1
スマートメーター	43,877	0.0105	0.1020	0	1
HEMS	43,877	0.0116	0.1071	0	1
クールビズ・ウォームビズの実施	43,877	0.2583	0.4377	0	1
エアコンの温度を推奨温度に設定	43,877	0.3229	0.4676	0	1
徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用	43,877	0.2843	0.4511	0	1
自家発電システムの導入	43,877	0.0620	0.2411	0	1
エコカー・省エネ製品の買替	43,877	0.1166	0.3210	0	1
自然環境保護活動に参加	43,877	0.0143	0.1186	0	1
こまめに電気を消す	43,877	0.7301	0.4439	0	1
冷蔵庫の開閉時間短縮	43,877	0.2550	0.4359	0	1
主電源を切る	43,877	0.2156	0.4112	0	1
節電タップの使用	43,877	0.1684	0.3742	0	1
電気家計簿	43,877	0.0631	0.2432	0	1
手間・お金より環境保護	43,877	0.2084	0.4062	0	1
CO ₂ 削減貢献商品の購入	43,877	0.1066	0.3086	0	1
長期間モノを使用する	43,877	0.5328	0.4989	0	1
ゴミを減らす	43,877	0.3479	0.4763	0	1
市政評価(地域活動・ボランティア支援)	43,877	3.1688	0.6465	1	5
市政評価(良質な住環境政策)	43,877	3.2159	0.7385	1	5
市政評価(学校教育の充実)	43,877	3.1497	0.7203	1	5
市政評価(子育て支援の推進)	43,877	3.0213	0.7324	1	5
市政評価(自然環境保護活動)	43,877	3.2059	0.6931	1	5
市政評価(ゴミ処理・リサイクル)	43,877	3.3187	0.7647	1	5
市政評価(大気・水など環境政策)	43,877	3.1256	0.6697	1	5
市政評価(公園・街路樹整備)	43,877	3.2065	0.7806	1	5
市政評価(スポーツの振興)	43,877	3.1425	0.6591	1	5
社会関係資本	43,877	3.6706	0.5395	1	5
市区町村別環境規範	43,877	0.1611	0.0139	0.1175	0.1983
市区町村別社会関係資本	43,877	3.6834	0.0289	3.6442	3.7958

表6 基本統計量 社会関係資本平均以下

社会関係資本平均以下					
	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
外向性	43,179	2.9119	0.8596	1	5
協調性	43,179	3.5142	0.6698	1	5
勤勉性	43,179	3.1937	0.7771	1	5
神経症傾向	43,179	2.9766	0.7633	1	5
開放性	43,179	3.0326	0.7302	1	5
経済心配度	43,179	0.2941	0.4557	0	1
持ち家ダミー	43,179	0.6596	0.4738	0	1
子供ダミー	43,179	0.4156	0.4928	0	1
世帯人数	43,179	2.6712	1.3501	0	1
年間世帯収入	43,179	669.2675	442.9236	150	3,000
結婚ダミー	43,179	0.6784	0.4671	0	1
年齢	43,179	48.9031	11.4004	15	99
男性ダミー	43,179	0.6225	0.4848	0	1
大卒ダミー	43,179	0.4995	0.5000	0	1
居住年数5年未満	43,179	0.1238	0.3293	0	1
居住年数10年未満	43,179	0.1161	0.3203	0	1
居住年数20年未満	43,179	0.1959	0.3969	0	1
居住年数30年未満	43,179	0.2832	0.4506	0	1
居住年数40年未満	43,179	0.1309	0.3373	0	1
居住年数40年以上	43,179	0.0562	0.2303	0	1
大学生・大学院生	43,179	0.0055	0.0737	0	1
上記以外の学生	43,179	0.0005	0.0220	0	1
お勤め(正社員)	43,179	0.4065	0.4912	0	1
お勤め(契約社員など)	43,179	0.0466	0.2107	0	1
お勤め(派遣社員)	43,179	0.0222	0.1474	0	1
お勤め(パート・アルバイト)	43,179	0.1053	0.3070	0	1
会社経営者	43,179	0.0242	0.1535	0	1
政府職員・公務員	43,179	0.0469	0.2114	0	1
個人事業主	43,179	0.0682	0.2521	0	1
専門職(医師、弁護士、教授など)	43,179	0.0279	0.1646	0	1
専業主婦・主夫	43,179	0.1161	0.3203	0	1
年金受給者	43,179	0.0606	0.2386	0	1
無職(求職していない)	43,179	0.0550	0.2280	0	1
オール電化	43,179	0.1232	0.3286	0	1
IHキッチン	43,179	0.1719	0.3773	0	1
太陽光システム	43,179	0.0601	0.2376	0	1
エコキュート	43,179	0.1073	0.3095	0	1
ガスエコジョーズ給湯器	43,179	0.0141	0.1177	0	1
燃料電池システム	43,179	0.0052	0.0720	0	1
自家発電システム	43,179	0.0044	0.0664	0	1
スマートメーター	43,179	0.0090	0.0945	0	1
HEMS	43,179	0.0092	0.0954	0	1
クールビズ・ウォームビズの実施	43,179	0.2521	0.4342	0	1
エアコンの温度を推奨温度に設定	43,179	0.3010	0.4587	0	1
徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用	43,179	0.2905	0.4540	0	1
自家発電システムの導入	43,179	0.0481	0.2139	0	1
エコカー・省エネ製品の買替	43,179	0.1028	0.3036	0	1
自然環境保護活動に参加	43,179	0.0136	0.1157	0	1
こまめに電気を消す	43,179	0.7191	0.4495	0	1
冷蔵庫の開閉時間短縮	43,179	0.2476	0.4316	0	1
主電源を切る	43,179	0.2169	0.4121	0	1
節電タップの使用	43,179	0.1721	0.3774	0	1
電気家計簿	43,179	0.0638	0.2444	0	1
手間・お金より環境保護	43,179	0.1985	0.3989	0	1
CO ₂ 削減貢献商品の購入	43,179	0.1007	0.3009	0	1
長期間モノを使用する	43,179	0.5236	0.4994	0	1
ゴミを減らす	43,179	0.3339	0.4716	0	1
市政評価(地域活動・ボランティア支援)	43,179	3.1287	0.6456	1	5
市政評価(良質な住環境政策)	43,179	3.1396	0.7416	1	5
市政評価(学校教育の充実)	43,179	3.0948	0.7132	1	5
市政評価(子育て支援の推進)	43,179	2.9841	0.7270	1	5
市政評価(自然環境保護活動)	43,179	3.1462	0.6911	1	5
市政評価(ゴミ処理・リサイクル)	43,179	3.2768	0.7711	1	5
市政評価(大気・水など環境政策)	43,179	3.0863	0.6704	1	5
市政評価(公園・街路樹整備)	43,179	3.1620	0.7792	1	5
市政評価(スポーツの振興)	43,179	3.1142	0.6598	1	5
社会関係資本	43,179	3.5959	0.5554	1	5
市区町村別環境規範	43,179	0.1561	0.0125	0.1258	0.2186
市区町村別社会関係資本	43,179	3.6054	0.0298	3.4528	3.6439

第3節 分析結果

以下、分析結果を示す。表8は全サンプル、表9、10は環境規範のサンプル分けの結果を、表11、12は社会関係資本のサンプル分けの結果を示す。表9～12においては、主要な説明変数のパラメータの結果のみを示している。サンプル分けの分析で得られたコントロール変数の結果は、全サンプルと大きな差がないため、省略している。なお、全サンプルの分析結果についても、代表で環境配慮行動の1項目のみすべての結果を表示し、残りの14項目についてはコントロール変数の表示を省略する。コントロール変数の分析結果については、環境配慮行動15項目すべてにおいてサンプル分けと同様に、特筆すべき相違点は見受けられなかったため、省略して差し支えないものとする。また、基本統計量において環境配慮行動、市政評価のそれぞれの項目の平均値にばらつきが存在する。そのため、それぞれのサンプル分けの結果別に、環境配慮行動に対する社会関係資本の係数と、社会関係資本に対する市政評価の係数を、環境配慮行動のそれぞれの項目の平均値で割り、変化量を算出する。はじめに、表8の全サンプルの分析結果について説明を行う。

第1項 全サンプル分析結果

環境配慮行動を被説明変数として使用した分析では、15項目すべての環境配慮行動に対して社会関係資本の係数が統計的に有意に正であるという結果が得られている。そのため、社会関係資本によって環境配慮行動が促進されることが示されている先行研究(丸田ら, 2008)と同様の結果が得られたことになる。一方で、社会関係資本が及ぼす環境配慮行動促進への影響について、環境規範を持つ人と社会関係資本を構築することに限定している先行研究(Videras et al, 2012)と必ずしも同じとは言えない結果となっている。環境規範による影響については、環境規範平均以上、平均以下のサンプル分けの結果で詳細を述べる。

係数と変化量を順位付けすると、係数は「手間・お金より環境保護」が一番高く、次いで「ゴミを減らす」が高い結果となっている。一方、変化量が高い順では、「自然環境保護活動に参加」が最も高く、次いで「手間・お金より環境保護」が高いという結果が得られている。従って、社会関係資本を1段階向上させることにより、「自然環境保護活動に参加」を始め、実施率の低い項目に対して強いインパクトを与えることが期待できる結果となっている。また、「手間・お金より環境保護」という項目は、係数、変化量ともに順位が高くなっていることから、社会関係資本を1段階向上させることは、環境意識の向上に効果的であると言えるだろう。また、社会関係資本が環境配慮行動に与える影響は、環境配慮行動の項目ごとに相違があることが結果から示唆される。⁴

コントロール変数として使用した社会人口統計に関して、年齢、男性ダミー、大卒ダミー、年間世帯収入の係数については統計的に有意に正であり、結婚ダミーの係数については、10%水準で統計的に有意に正であった。子供ダミーについては統計的に有意な結果が得られなかった。世帯人数の係数に関しては、10%水準で統計的に有意に負という結果であった。年齢に関しては、年齢が高い方が様々な分野に関する知識が豊富であり、環境配

⁴ 全サンプルにおいて、実施率の高い3項目は順にエコカー・省エネ製品の購入、こまめに電気を消す、長期間モノを使用する、である。低い3項目は順に自然環境保護活動に参加、電気家計簿、CO₂削減貢献商品の購入となっている。

慮行動の必要性についても若い世代より知識を持っていることが原因であると考えられる。男性ダミーについては、女性の方が家事を行うことが多いと考えられるため、男性の方が、買い物時の環境配慮製品の選択や節電など、環境配慮行動を意識する機会が少ないことが原因であると考えられる。大卒ダミーについては、環境配慮行動の重要性や環境問題の深刻さについての知識が豊富であると考えられる。年間世帯収入については、経済的な余裕が環境配慮製品の購入等に影響していると考えられる。結婚ダミーについては、結婚による将来世代や家計への懸念が影響していると考えられる。世帯人数については、世帯の人数が多くなるほど経済的負担が増えると考えられる。

性格に関する変数について、協調性、勤勉性、開放性の係数は統計的に有意に正であり、神経症傾向、外向性に関しては、統計的に有意な結果が得られていない。従って、人々との関係性を重視し、勤勉な性格が環境配慮行動に影響を及ぼすと考えられる。⁵ 環境配慮製品の導入状況に関して、IH キッチン、HEMS の導入状況は統計的に有意に正であるが、残りの4項目については、統計的有意とは言えない場合、もしくは統計的に負に有意である場合がある。従って、環境配慮製品の導入を促進することの効果より、社会関係資本を1段階向上させることの効果の方が、環境配慮行動の促進により有効であるという示唆が得られた。

社会関係資本を被説明変数とした分析では、9項目すべての市政評価の係数が統計的に有意に正であるという結果が得られているため、地域活動・ボランティアなど市民活動の活性化によって社会関係資本が高まるという先行研究(内閣府国民生活局, 2003)と同様の結果が得られたことになる。また、スポーツ組織、活動に新たなメンバーや活動が加わるといった新規性が加わることで社会関係資本が向上するという先行研究(長積ら, 2006)と同様の結果であると言える。さらに、Hall (1999)は、イギリスで、教育水準の高さとコミュニティへの関与度には正の相関があることを示しているため、日本でも同様の結果が得られたことになる。佐藤(2010)は、子育て支援サービスによって親子交流が活発化することを示しており、本分析でも同様の結果が得られたことになる。自然環境保護活動、大気・水など環境政策は、その地域の環境に対する意識の向上に寄与すると考えられるため、社会関係資本だけでなく環境意識も向上させることが結果から示唆される。また、係数の高さのランキングを見ると、「地域活動・ボランティア」が最も高く、スポーツの振興が次いで高い結果である。市政への評価が向上することで、社会関係資本の被説明変数として使用している地域の人との関係性、家族との関係性、友人・知人との関係性への重要度・満足度、地域への愛着が高まることが示唆され、市政に対する満足度が人々との関係性、地域への愛着を高めるうえで重要であるということが分かった。また、変化量については、係数とほぼ同じ順位であった。

社会人口統計に関する変数は、大卒ダミー、結婚ダミー、子供ダミー、年間世帯収入、世帯人数の係数は統計的に有意に正であり、年齢、男性ダミーの係数は統計的に有意に負であった。結婚ダミーについては、町内会等の地域コミュニティへの参加の可能性が高くなるため、社会関係資本の向上につながると考えられる。世帯人数は、家族や同居人を通じて、直接的・間接的に地域と関わる機会が増加することで、社会関係資本が高まると考えられる。大卒ダミーの係数は、大学においてコミュニティに所属する機会があると考

⁵ 雇用形態の係数は、環境配慮行動の項目ごとに異なる結果が得られた。

られる。性格に関する変数では、外向性、協調性、開放性の係数が統計的に有意に正という結果が得られている。神経症傾向は、統計的に負に有意であり、勤勉性は統計的に有意な結果が得られなかった。従って、人との関わりを重視する人が、社会関係資本が高くなると考えられる。持ち家ダミーの係数は、統計的に有意に正であった。そのため、家を持つ人の方が、地域との関係性を持つことに積極的であり、地域の人との関係性や信頼性の向上に結び付くと考えられる。⁶

⁶居住年数、雇用形態に関する変数は、市政評価の項目ごとに結果に相違がみられた。

表7 分析結果 全サンプル

クールビズ・ウォームビズの実施	地域活動・ボランティア支援	公園・街路樹整備	良質な住環境政策	自然環境保護活動	子育て支援の推進
社会関係資本	0.0502***	0.0502***	0.0502***	0.0502***	0.0502***
年齢	0.0034***	0.0034***	0.0034***	0.0034***	0.0034***
男性ダミー	0.0305***	0.0305***	0.0305***	0.0305***	0.0305***
大卒ダミー	0.0597***	0.0597***	0.0597***	0.0597***	0.0597***
結婚ダミー	0.0079*	0.0079*	0.0079*	0.0079*	0.0079*
子供ダミー	0.0066	0.0066	0.0066	0.0066	0.0066
年間世帯収入	0.0051***	0.0051***	0.0051***	0.0051***	0.0051***
外向性	-0.0015	-0.0015	-0.0015	-0.0015	-0.0015
協調性	0.0207***	0.0207***	0.0207***	0.0207***	0.0207***
勤勉性	0.0097***	0.0097***	0.0097***	0.0097***	0.0097***
神経症傾向	0.0014	0.0014	0.0014	0.0014	0.0014
開放性	0.0112***	0.0112***	0.0112***	0.0112***	0.0112***
持ち家ダミー	0.0025	0.0025	0.0025	0.0025	0.0025
世帯人数	-0.0051***	-0.0051***	-0.0051***	-0.0051***	-0.0051***
大学生・大学院生	0.0396*	0.0396*	0.0396*	0.0396*	0.0396*
上記以外の学生	-0.0562	-0.0562	-0.0562	-0.0562	-0.0562
お勤め(正社員)	0.1004***	0.1004***	0.1004***	0.1004***	0.1004***
お勤め(契約社員など)	0.0950***	0.0950***	0.0950***	0.0950***	0.0950***
お勤め(派遣社員)	0.0876***	0.0876***	0.0876***	0.0876***	0.0876***
お勤め(パート・アルバイト)	0.0396***	0.0396***	0.0396***	0.0396***	0.0396***
会社経営者	0.0266*	0.0266*	0.0266*	0.0266*	0.0266*
政府職員・公務員	0.1773***	0.1773***	0.1773***	0.1773***	0.1773***
個人事業主	-0.0053	-0.0053	-0.0053	-0.0053	-0.0053
専門職(医師、弁護士、教授など)	-0.0085	-0.0085	-0.0085	-0.0085	-0.0085
専業主婦・主夫	0.0202	0.0202	0.0202	0.0202	0.0202
年金受給者	-0.0429***	-0.0429***	-0.0429***	-0.0429***	-0.0429***
無職(求職していない)	-0.0175	-0.0175	-0.0175	-0.0175	-0.0175
オール電化	-0.0326***	-0.0326***	-0.0326***	-0.0326***	-0.0326***
IHキッチン	0.0153***	0.0153***	0.0153***	0.0153***	0.0153***
太陽光システム	0.0113*	0.0113*	0.0113*	0.0113*	0.0113*
エコキュート	0.0083	0.0083	0.0083	0.0083	0.0083
ガスエンジン給湯器	-0.0252**	-0.0252**	-0.0252**	-0.0252**	-0.0252**
燃料電池システム	-0.0077	-0.0077	-0.0077	-0.0077	-0.0077
自家発電システム	-0.0458**	-0.0458**	-0.0458**	-0.0458**	-0.0458**
スマートメーター	0.0158	0.0158	0.0158	0.0158	0.0158
HEMSの導入	0.0407***	0.0407***	0.0407***	0.0407***	0.0407***
定数項	-0.3693***	-0.3693***	-0.3693***	-0.3693***	-0.3693***
社会関係資本	-0.0004**	-0.0007***	-0.0001	-0.0005***	-0.0005***
年齢	-0.0998***	-0.0999***	-0.0954***	-0.1001***	-0.1054***
男性ダミー	0.0189***	0.0174***	0.0151***	0.0179***	0.0215***
大卒ダミー	0.1838***	0.1861***	0.1817***	0.1853***	0.1915***
結婚ダミー	0.0104**	0.0130***	0.0147***	0.0131***	0.0149***
子供ダミー	0.0019***	0.0020***	0.0013***	0.0019***	0.0021***
年間世帯収入	0.1374***	0.1448***	0.1393***	0.1428***	0.1458***
外向性	0.1364***	0.1397***	0.1356***	0.1382***	0.1447***
協調性	0.0013	-0.0009	-0.0014	-0.0021	-0.0019
神経症傾向	-0.0258***	-0.0278***	-0.0233***	-0.0274***	-0.0298***
開放性	0.0073***	0.0082***	0.0085***	0.0072***	0.0087***
持ち家ダミー	0.1022***	0.1145***	0.0894***	0.1095***	0.1103***
世帯人数	0.0291***	0.0327***	0.0322***	0.0314***	0.0322***
大学生・大学院生	0.0500*	0.0739***	0.0608**	0.0627**	0.0729***
上記以外の学生	-0.0583	-0.0293	-0.0276	-0.0447	-0.0229
お勤め(正社員)	0.0167	0.0156	0.0154	0.0151	0.0146
お勤め(契約社員など)	-0.0077	-0.0118	-0.0114	-0.0113	-0.0136
お勤め(派遣社員)	-0.0637***	-0.0637***	-0.0641***	-0.0670***	-0.0690***
お勤め(パート・アルバイト)	-0.0290**	-0.0267*	-0.0263*	-0.0300**	-0.0306**
会社経営者	0.0826***	0.0828***	0.0815***	0.0838***	0.0801***
政府職員・公務員	0.017	0.0255*	0.0222	0.0228	0.0203
個人事業主	0.0271*	0.0276*	0.0306**	0.0289**	0.0285*
専門職(医師、弁護士、教授など)	0.0492***	0.0492***	0.0465***	0.0495***	0.0508***
専業主婦・主夫	-0.0255*	-0.02	-0.0246*	-0.0259*	-0.0245*
年金受給者	0.0687***	0.0745***	0.0695***	0.0713***	0.0816***
無職(求職していない)	-0.0624***	-0.0634***	-0.0637***	-0.0673***	-0.0628***
居住年数5年未満	-0.0026	-0.0072	-0.0112	-0.0091	-0.0054
居住年数10年未満	-0.0126*	-0.0178**	-0.0191***	-0.0188***	-0.0166**
居住年数20年未満	-0.0157**	-0.0208***	-0.0221***	-0.0215***	-0.0219***
居住年数30年未満	-0.0233***	-0.0316***	-0.0279***	-0.0306***	-0.0318***
居住年数40年未満	0.0137*	0.0069	0.0130*	0.0077	0.0078
居住年数40年以上	0.0648***	0.0632***	0.0688***	0.0649***	0.0646***
地域活動・ボランティア支援	0.2263***	0.1401***			
公園・街路樹整備			0.1869***		
良質な住環境政策				0.1706***	
自然環境保護活動					0.1279***
子育て支援の推進					
大気・水など環境政策					
ゴミ処理・リサイクル					
スポーツの振興					
学校教育の充実					
定数項	1.8662***	2.1045***	1.9687***	2.0282***	2.1485***
サンプル数	87,056	87,056	87,056	87,056	87,056

表7 分析結果 全サンプル (続き)

クールビズ・ウォームビズの実施	大気・水など環境政策	ゴミ処理・リサイクル	スポーツの振興	学校教育の充実
社会関係資本	0.0502***	0.0502***	0.0502***	0.0502***
年齢	0.0034***	0.0034***	0.0034***	0.0034***
男性ダミー	0.0305***	0.0305***	0.0305***	0.0305***
大卒ダミー	0.0597***	0.0597***	0.0597***	0.0597***
結婚ダミー	0.0079*	0.0079*	0.0079*	0.0079*
子供ダミー	0.0066	0.0066	0.0066	0.0066
年間世帯収入	0.0051***	0.0051***	0.0051***	0.0051***
外向性	-0.0015	-0.0015	-0.0015	-0.0015
協調性	0.0207***	0.0207***	0.0207***	0.0207***
勤勉性	0.0097***	0.0097***	0.0097***	0.0097***
神経症傾向	0.0014	0.0014	0.0014	0.0014
開放性	0.0112***	0.0112***	0.0112***	0.0112***
持ち家ダミー	0.0025	0.0025	0.0025	0.0025
世帯人数	-0.0051***	-0.0051***	-0.0051***	-0.0051***
大学生・大学院生	0.0396*	0.0396*	0.0396*	0.0396*
上記以外の学生	-0.0562	-0.0562	-0.0562	-0.0562
お勤め(正社員)	0.1004***	0.1004***	0.1004***	0.1004***
お勤め(契約社員など)	0.0950***	0.0950***	0.0950***	0.0950***
お勤め(派遣社員)	0.0876***	0.0876***	0.0876***	0.0876***
お勤め(パート・アルバイト)	0.0396***	0.0396***	0.0396***	0.0396***
会社経営者	0.0266*	0.0266*	0.0266*	0.0266*
政府職員・公務員	0.1773***	0.1773***	0.1773***	0.1773***
個人事業主	-0.0053	-0.0053	-0.0053	-0.0053
専門職(医師、弁護士、教授など)	-0.0085	-0.0085	-0.0085	-0.0085
専業主婦・主夫	0.0202	0.0202	0.0202	0.0202
年金受給者	-0.0429***	-0.0429***	-0.0429***	-0.0429***
無職(求職していない)	-0.0175	-0.0175	-0.0175	-0.0175
オール電化	-0.0326***	-0.0326***	-0.0326***	-0.0326***
IHキッチン	0.0153***	0.0153***	0.0153***	0.0153***
太陽光システム	0.0113*	0.0113*	0.0113*	0.0113*
エコキュート	0.0083	0.0083	0.0083	0.0083
ガスエンジン給湯器	-0.0252**	-0.0252**	-0.0252**	-0.0252**
燃料電池システム	-0.0077	-0.0077	-0.0077	-0.0077
自家発電システム	-0.0458**	-0.0458**	-0.0458**	-0.0458**
スマートメーター	0.0158	0.0158	0.0158	0.0158
HEMSの導入	0.0407***	0.0407***	0.0407***	0.0407***
定数項	-0.3693***	-0.3693***	-0.3693***	-0.3693***
社会関係資本				
年齢	-0.0005**	-0.0012***	-0.0005***	-0.0006***
男性ダミー	-0.1065***	-0.1015***	-0.0984***	-0.1013***
大卒ダミー	0.0186***	0.0191***	0.0182***	0.0199***
結婚ダミー	0.1880***	0.1854***	0.1868***	0.1881***
子供ダミー	0.0145***	0.0154***	0.0119***	0.0139***
年間世帯収入	0.0019***	0.0021***	0.0019***	0.0017***
外向性	0.1449***	0.1437***	0.1408***	0.1433***
協調性	0.1410***	0.1363***	0.1411***	0.1375***
勤勉性	-0.0012	-0.0025	0.0005	-0.0013
神経症傾向	-0.0255***	-0.0265***	-0.0278***	-0.0273***
開放性	0.0084***	0.0080***	0.0080***	0.0087***
持ち家ダミー	0.1077***	0.1081***	0.1070***	0.1088***
世帯人数	0.0313***	0.0312***	0.0302***	0.0308***
大学生・大学院生	0.0653**	0.0611**	0.0705***	0.0595**
上記以外の学生	-0.046	-0.0232	-0.0707	-0.0512
お勤め(正社員)	0.0133	0.0109	0.0125	0.0115
お勤め(契約社員など)	-0.014	-0.0201	-0.011	-0.0156
お勤め(派遣社員)	-0.0670***	-0.0677***	-0.0648***	-0.0715***
お勤め(パート・アルバイト)	-0.0295**	-0.0334**	-0.0300**	-0.0322**
会社経営者	0.0775***	0.0761***	0.0773***	0.0780***
政府職員・公務員	0.0195	0.0151	0.017	0.0268*
個人事業主	0.0241*	0.0239*	0.0294**	0.0272*
専門職(医師、弁護士、教授など)	0.0469***	0.0450***	0.0448***	0.0485***
専業主婦・主夫	-0.0245*	-0.0276*	-0.0235*	-0.0255*
年金受給者	0.0710***	0.0614***	0.0738***	0.0725***
無職(求職していない)	-0.0661***	-0.0718***	-0.0630***	-0.0637***
居住年数5年未満	-0.006	-0.0068	-0.0061	-0.004
居住年数10年未満	-0.0170**	-0.0185**	-0.0169**	-0.0143**
居住年数20年未満	-0.0188***	-0.0232***	-0.0204***	-0.0174***
居住年数30年未満	-0.0295***	-0.0331***	-0.0290***	-0.0278***
居住年数40年未満	0.0073	0.005	0.0102	0.0111
居住年数40年以上	0.0635***	0.0616***	0.0629***	0.0651***
地域活動・ボランティア支援				
公園・街路樹整備				
良質な住環境政策				
自然環境保護活動				
子育て支援の推進				
大気・水など環境政策	0.1643***			
ゴミ処理・リサイクル		0.1518***		
スポーツの振興			0.1874***	
学校教育の充実				0.1680***
定数項	2.0315***	2.1082***	1.9733***	2.0434***
サンプル数	87,056	87,056	87,056	87,056

表7 分析結果 全サンプル (続き)

環境配慮行動	エアコンの温度を推奨温度に設定	徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用	自家発電システムの導入	エコカー・省エネ製品の買替
社会関係資本	0.0724***	0.0610***	0.0101***	0.0272***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2263***	0.2263***	0.2263***	0.2263***
公園・街路樹整備	0.1401***	0.1401***	0.1401***	0.1401***
良質な住環境政策	0.1869***	0.1869***	0.1869***	0.1869***
自然環境保護活動	0.1706***	0.1706***	0.1706***	0.1706***
子育て支援の推進	0.1279***	0.1279***	0.1279***	0.1279***
大気・水など環境政策	0.1643***	0.1643***	0.1643***	0.1643***
ゴミ処理・リサイクル	0.1518***	0.1518***	0.1518***	0.1518***
スポーツの振興	0.1874***	0.1874***	0.1874***	0.1874***
学校教育の充実	0.1680***	0.1680***	0.1680***	0.1680***
サンプル数	87,056	87,056	87,056	87,056
環境配慮行動	自然環境保護活動に参加	こまめに電気を消す	冷蔵庫の開閉時間短縮	主電源を切る
社会関係資本	0.0096***	0.0621***	0.0480***	0.0205***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2263***	0.2263***	0.2263***	0.2263***
公園・街路樹整備	0.1401***	0.1401***	0.1401***	0.1401***
良質な住環境政策	0.1869***	0.1869***	0.1869***	0.1869***
自然環境保護活動	0.1706***	0.1706***	0.1706***	0.1706***
子育て支援の推進	0.1279***	0.1279***	0.1279***	0.1279***
大気・水など環境政策	0.1643***	0.1643***	0.1643***	0.1643***
ゴミ処理・リサイクル	0.1518***	0.1518***	0.1518***	0.1518***
スポーツの振興	0.1874***	0.1874***	0.1874***	0.1874***
学校教育の充実	0.1680***	0.1680***	0.1680***	0.1680***
サンプル数	87,056	87,056	87,056	87,056
環境配慮行動	節電タップの使用	電気家計簿	手間・お金より環境保護	CO ₂ 削減貢献商品の購入
社会関係資本	0.0154***	0.0161***	0.1145***	0.0510***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2263***	0.2263***	0.2263***	0.2263***
公園・街路樹整備	0.1401***	0.1401***	0.1401***	0.1401***
良質な住環境政策	0.1869***	0.1869***	0.1869***	0.1869***
自然環境保護活動	0.1706***	0.1706***	0.1706***	0.1706***
子育て支援の推進	0.1279***	0.1279***	0.1279***	0.1279***
大気・水など環境政策	0.1643***	0.1643***	0.1643***	0.1643***
ゴミ処理・リサイクル	0.1518***	0.1518***	0.1518***	0.1518***
スポーツの振興	0.1874***	0.1874***	0.1874***	0.1874***
学校教育の充実	0.1680***	0.1680***	0.1680***	0.1680***
サンプル数	87,056	87,056	87,056	87,056
環境配慮行動	長期間モノを使用する	ゴミを減らす		
社会関係資本	0.0206***	0.0819***		
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2263***	0.2263***		
公園・街路樹整備	0.1401***	0.1401***		
良質な住環境政策	0.1869***	0.1869***		
自然環境保護活動	0.1706***	0.1706***		
子育て支援の推進	0.1279***	0.1279***		
大気・水など環境政策	0.1643***	0.1643***		
ゴミ処理・リサイクル	0.1518***	0.1518***		
スポーツの振興	0.1874***	0.1874***		
学校教育の充実	0.1680***	0.1680***		
サンプル数	87,056	87,056		

表 8 分析結果 全サンプル 係数と変化量順位

全サンプル					
環境配慮行動	平均	係数	変化量	係数順位	変化量順位
自然環境保護活動に参加	0.0139	0.0096	0.6896	15	1
手間・お金より環境保護	0.2035	0.1145	0.5626	1	2
CO ₂ 削減貢献商品の購入	0.1037	0.051	0.4920	6	3
電気家計簿	0.0635	0.0161	0.2537	12	4
エコカー・省エネ製品の買替	0.1097	0.0272	0.2478	9	5
ゴミを減らす	0.3410	0.0819	0.2402	2	6
エアコンの温度を推奨温度に設定	0.3121	0.0724	0.2320	3	7
徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用	0.2873	0.061	0.2123	5	8
クールビズ・ウォームビズの実施	0.2552	0.0502	0.1967	7	9
冷蔵庫の開閉時間短縮	0.2513	0.048	0.1910	8	10
自家発電システムの導入	0.0551	0.0101	0.1834	14	11
主電源を切る	0.2162	0.0205	0.0948	11	12
節電タップの使用	0.1702	0.0154	0.0905	13	13
こまめに電気を消す	0.7246	0.0621	0.0857	4	14
長期間モノを使用する	0.5282	0.0206	0.0390	10	15

全サンプル					
市政評価	平均	係数	変化量	係数順位	変化量順位
地域活動・ボランティア支援	3.1489	0.2263	0.0719	1	1
スポーツの振興	3.1285	0.1874	0.0599	2	2
良質な住環境政策	3.1781	0.1869	0.0588	3	3
自然環境保護活動	3.1763	0.1706	0.0537	4	5
学校教育の充実	3.1225	0.168	0.0538	5	4
大気・水など環境政策	3.1061	0.1643	0.0529	6	6
ゴミ処理・リサイクル	3.2979	0.1518	0.0460	7	7
公園・街路樹整備	3.1844	0.1401	0.0440	8	8
子育て支援の推進	3.0029	0.1279	0.0426	9	9

第2項 環境規範のサンプル別分析結果

次に、表 10、表 11 で示した環境規範平均以上、以下のサンプル分けの分析結果の説明を行う。環境規範平均以上の結果については、全サンプルの結果と同様に、15 項目すべての環境配慮行動に対して社会関係資本の係数は統計的に有意に正であるという結果が得られている。社会関係資本に対しても同様に、9 項目すべての市政評価の係数が統計的に有意に正であるという結果が得られている。社会関係資本の係数、市政評価の係数ともに全サンプルの結果と大きな差は見られず、変化量についても同様に順位については全サンプルの結果と大きな差は見られなかった。

環境規範平均以下の分析結果についても同様に、環境配慮行動に対して社会関係資本の係数が統計的に有意に正であるという結果が得られ、社会関係資本に対して市政評価の係数が統計的に有意に正であるという結果が得られた。係数の順位について、環境配慮行動、市政評価ともに環境規範平均以上の結果とほぼ相違は見られなかった。変化量の順位についても、特筆すべき差異は見受けられなかった。

係数を環境規範平均以上、平均以下のサンプル分けごとで比較すると、環境配慮行動に対する社会関係資本の係数は、「手間・お金より環境保護」、「エアコンの温度を推奨温度に設定」、「徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用」、「クールビズ・ウォームビズの実施」、「CO₂削減貢献商品の購入」、「冷蔵庫の開閉時間短縮」、「主電源を切る」、「電気家計簿」の 8 項目については、環境規範平均以上の結果の方が高いという結果となっている。また、残りの 7 項目に対しては、環境規範平均以下の結果のほうが、係数が高い結果となっている。従って、環境規範別の分析結果においても、社会関係資本の影響力は、全サンプルと同様に、環境配慮行動の項目ごとに相違が見られる結果となっている。⁷変化量で見ると、順位については、環境規範平均以上の結果とほぼ変わらない結果となっている。しかし、変化量の大きさについては、環境規範平均以下の方が以上の結果より高いという結果が得られている。つまり、環境配慮行動の実施率が低い状態においては、社会関係資本を向上させることによる環境配慮行動促進へのインパクトが強いことが示唆される結果となった。また、この結果について、以下のような考察ができる。一つ目に、Videras et al (2012) の研究では考慮されていなかった、社会関係資本の要素の一つであると言える「利他性」が影響した結果であると考えられる。Videras et al (2012) では、社会関係資本の中でも、つながりの強さを重要視しているが、先述の通り、人々との関係性や信頼性といった面、更には地域との関係性については触れていない。従って、環境配慮行動の促進に対して、地域の人、家族、知人・友人との関係性を重視する、すなわち、他者との関係性、利他性を重視する人は、環境規範に関わらず社会関係資本が有効であり、更に地域との関係性を持つことが重要であるという示唆が得られたと言えるだろう。

⁷ 環境規範平均以上のサンプル分けにおいて、実施率の高い項目は順にこまめに電気を消す、長期間モノを使用する、ゴミを減らす、という項目である。実施率の低い項目順については、自然環境保護活動に参加、自家発電システムの導入、電気家計簿である。

環境規範平均以下のサンプル分けにおいて、実施率の高い項目順は環境規範平均以上と同様の結果であり、低い項目については順に自然環境保護活動に参加、電気家計簿、自家発電システムである。

また、基本統計量をみると、環境規範平均以上のサンプル分けは、平均以下のサンプル分けより社会関係資本の平均値が高くなっていることが示されている。そのため、環境規範が高い地域は社会関係資本も高いことに加えて、先述の環境規範平均以上の係数の方が高かった8項目については、社会関係資本が1段階高まることによる環境配慮行動への影響が強いことが示された。更に、変化量が大きい項目については、全サンプル結果と同様に、実施率が低い項目であり、社会関係資本の向上による環境配慮行動促進へのインパクトが強いことが指摘できると言える。

以上の結果から、社会関係資本を向上させることで、地域全体での環境配慮行動の促進が可能であるということ、地域との関係性や利他性を考慮した社会関係資本を向上させることは、環境規範が高い場合、低い場合のどちらにおいても、環境配慮行動に有意な影響を及ぼすということが示唆される結果となった。

表9 分析結果 環境規範平均以上

環境配慮行動	クールビズ・ウォームエアコンの温度を の実施	エアコンの温度を 推奨温度に設定	徒歩・自転車・公共交通機関 を積極的に利用	自家発電システムの 導入
社会関係資本	0.0541***	0.0768***	0.0709***	0.0081***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2292***	0.2292***	0.2292***	0.2292***
公園・街路樹整備	0.1386***	0.1386***	0.1386***	0.1386***
良質な住環境政策	0.1903***	0.1903***	0.1903***	0.1903***
自然環境保護活動	0.1743***	0.1743***	0.1743***	0.1743***
子育て支援の推進	0.1285***	0.1285***	0.1285***	0.1285***
大気・水など環境政策	0.1703***	0.1703***	0.1703***	0.1703***
ゴミ処理・リサイクル	0.1534***	0.1534***	0.1534***	0.1534***
スポーツの振興	0.1905***	0.1905***	0.1905***	0.1905***
学校教育の充実	0.1693***	0.1693***	0.1693***	0.1693***
サンプル数	43,850	43,850	43,850	43,850
環境配慮行動	エコカー・ 省エネ製品の買替	自然環境保護活動 に参加	こまめに電気を消す	冷蔵庫の 閉時間短縮
社会関係資本	0.0266***	0.0095***	0.0616***	0.0517***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2292***	0.2292***	0.2292***	0.2292***
公園・街路樹整備	0.1386***	0.1386***	0.1386***	0.1386***
良質な住環境政策	0.1903***	0.1903***	0.1903***	0.1903***
自然環境保護活動	0.1743***	0.1743***	0.1743***	0.1743***
子育て支援の推進	0.1285***	0.1285***	0.1285***	0.1285***
大気・水など環境政策	0.1703***	0.1703***	0.1703***	0.1703***
ゴミ処理・リサイクル	0.1534***	0.1534***	0.1534***	0.1534***
スポーツの振興	0.1905***	0.1905***	0.1905***	0.1905***
学校教育の充実	0.1693***	0.1693***	0.1693***	0.1693***
サンプル数	43,850	43,850	43,850	43,850
環境配慮行動	主電源を切る	節電タップの利用	電気家計簿	手間・お金より 環境保護
社会関係資本	0.0239***	0.0151***	0.0185***	0.1199***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2292***	0.2292***	0.2292***	0.2292***
公園・街路樹整備	0.1386***	0.1386***	0.1386***	0.1386***
良質な住環境政策	0.1903***	0.1903***	0.1903***	0.1903***
自然環境保護活動	0.1743***	0.1743***	0.1743***	0.1743***
子育て支援の推進	0.1285***	0.1285***	0.1285***	0.1285***
大気・水など環境政策	0.1703***	0.1703***	0.1703***	0.1703***
ゴミ処理・リサイクル	0.1534***	0.1534***	0.1534***	0.1534***
スポーツの振興	0.1905***	0.1905***	0.1905***	0.1905***
学校教育の充実	0.1693***	0.1693***	0.1693***	0.1693***
サンプル数	43,850	43,850	43,850	43,850
環境配慮行動	CO ₂ 削減貢献商品 の購入	長期間モノを 使用する	ゴミを減らす	
社会関係資本	0.0534***	0.0180***	0.0807***	
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2292***	0.2292***	0.2292***	
公園・街路樹整備	0.1386***	0.1386***	0.1386***	
良質な住環境政策	0.1903***	0.1903***	0.1903***	
自然環境保護活動	0.1743***	0.1743***	0.1743***	
子育て支援の推進	0.1285***	0.1285***	0.1285***	
大気・水など環境政策	0.1703***	0.1703***	0.1703***	
ゴミ処理・リサイクル	0.1534***	0.1534***	0.1534***	
スポーツの振興	0.1905***	0.1905***	0.1905***	
学校教育の充実	0.1693***	0.1693***	0.1693***	
サンプル数	43,850	43,850	43,850	

表 10 分析結果 環境規範平均以下

環境配慮行動	クールビズ・ ウォームビズの実施	エアコンの温度を 推奨温度に設定	徒歩・自転車・公共交通機関 を積極的に利用	自家発電システム の導入
社会関係資本	0.0459***	0.0676***	0.0502***	0.0122***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2232***	0.2232***	0.2232***	0.2232***
公園・街路樹整備	0.1415***	0.1415***	0.1415***	0.1415***
良質な住環境政策	0.1835***	0.1835***	0.1835***	0.1835***
自然環境保護活動	0.1667***	0.1667***	0.1667***	0.1667***
子育て支援の推進	0.1272***	0.1272***	0.1272***	0.1272***
大気・水など環境政策	0.1583***	0.1583***	0.1583***	0.1583***
ゴミ処理・リサイクル	0.1501***	0.1501***	0.1501***	0.1501***
スポーツの振興	0.1842***	0.1842***	0.1842***	0.1842***
学校教育の充実	0.1667***	0.1667***	0.1667***	0.1667***
サンプル数	43,206	43,206	43,206	43,206
環境配慮行動	エコカー・ 省エネ製品に買替	自然環境保護活動 に参加	こまめに電気を消す	冷蔵庫の 開閉時間短縮
社会関係資本	0.0277***	0.0097***	0.0620***	0.0440***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2232***	0.2232***	0.2232***	0.2232***
公園・街路樹整備	0.1415***	0.1415***	0.1415***	0.1415***
良質な住環境政策	0.1835***	0.1835***	0.1835***	0.1835***
自然環境保護活動	0.1667***	0.1667***	0.1667***	0.1667***
子育て支援の推進	0.1272***	0.1272***	0.1272***	0.1272***
大気・水など環境政策	0.1583***	0.1583***	0.1583***	0.1583***
ゴミ処理・リサイクル	0.1501***	0.1501***	0.1501***	0.1501***
スポーツの振興	0.1842***	0.1842***	0.1842***	0.1842***
学校教育の充実	0.1667***	0.1667***	0.1667***	0.1667***
サンプル数	43,206	43,206	43,206	43,206
環境配慮行動	主電源を切る	節電タップの利用	電気家計簿	手間・お金より 環境保護
社会関係資本	0.0168***	0.0155***	0.0133***	0.1087***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2232***	0.2232***	0.2232***	0.2232***
公園・街路樹整備	0.1415***	0.1415***	0.1415***	0.1415***
良質な住環境政策	0.1835***	0.1835***	0.1835***	0.1835***
自然環境保護活動	0.1667***	0.1667***	0.1667***	0.1667***
子育て支援の推進	0.1272***	0.1272***	0.1272***	0.1272***
大気・水など環境政策	0.1583***	0.1583***	0.1583***	0.1583***
ゴミ処理・リサイクル	0.1501***	0.1501***	0.1501***	0.1501***
スポーツの振興	0.1842***	0.1842***	0.1842***	0.1842***
学校教育の充実	0.1667***	0.1667***	0.1667***	0.1667***
サンプル数	43,206	43,206	43,206	43,206
環境配慮行動	CO ₂ 削減貢献商品 の購入	長期間モノを 使用する	ゴミを減らす	
社会関係資本	0.0484***	0.0232***	0.0827***	
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2232***	0.2232***	0.2232***	
公園・街路樹整備	0.1415***	0.1415***	0.1415***	
良質な住環境政策	0.1835***	0.1835***	0.1835***	
自然環境保護活動	0.1667***	0.1667***	0.1667***	
子育て支援の推進	0.1272***	0.1272***	0.1272***	
大気・水など環境政策	0.1583***	0.1583***	0.1583***	
ゴミ処理・リサイクル	0.1501***	0.1501***	0.1501***	
スポーツの振興	0.1842***	0.1842***	0.1842***	
学校教育の充実	0.1667***	0.1667***	0.1667***	
サンプル数	43,206	43,206	43,206	

表 11 環境規範平均以上 係数と変化量

環境規範平均以上					
環境配慮行動	平均	係数	変化量	係数順位	変化量順位
自然環境保護活動に参加	0.0147	0.0095	0.6479	14	1
手間・お金より環境保護	0.2170	0.1199	0.5526	1	2
CO ₂ 削減貢献商品の購入	0.1120	0.0534	0.4766	7	3
電気家計簿	0.0725	0.0185	0.2552	11	4
エコカー・省エネ製品の買替	0.1153	0.0266	0.2306	9	5
エアコンの温度を推奨温度に設定	0.3357	0.0768	0.2288	3	6
ゴミを減らす	0.3564	0.0807	0.2264	2	7
徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用	0.3189	0.0709	0.2224	4	8
冷蔵庫の開閉時間短縮	0.2593	0.0517	0.1994	8	9
クールビズ・ウォームビズの実施	0.2744	0.0541	0.1972	6	10
自家発電システムの導入	0.0555	0.0081	0.1460	15	11
主電源を切る	0.2216	0.0239	0.1078	10	12
節電タップの使用	0.1722	0.0151	0.0877	13	13
こまめに電気を消す	0.7378	0.0616	0.0835	5	14
長期間モノを使用する	0.5359	0.018	0.0336	12	15

環境規範平均以上					
市政評価	平均	係数	変化量	係数順位	変化量順位
地域活動・ボランティア支援	3.1620	0.2292	0.0725	1	1
スポーツの振興	3.1434	0.1905	0.0606	2	2
良質な住環境政策	3.2078	0.1903	0.0593	3	3
大気・水など環境政策	3.1199	0.1703	0.0546	5	4
自然環境保護活動	3.2054	0.1743	0.0544	4	5
学校教育の充実	3.1447	0.1693	0.0538	6	6
ゴミ処理・リサイクル	3.3203	0.1534	0.0462	7	7
公園・街路樹整備	3.2122	0.1386	0.0431	8	8
子育て支援の推進	3.0151	0.1285	0.0426	9	9

表 12 環境規範平均以下 係数と変化量

環境規範平均以下					
環境配慮行動	平均	係数	変化量	係数順位	変化量順位
自然環境保護活動に参加	0.0132	0.0097	0.7366	15	1
手間・お金より環境保護	0.1898	0.1087	0.5726	1	2
CO ₂ 削減貢献商品の購入	0.0951	0.0484	0.5087	6	3
エコカー・省エネ製品の買替	0.1041	0.0277	0.2662	9	4
ゴミを減らす	0.3253	0.0827	0.2543	2	5
電気家計簿	0.0543	0.0133	0.2449	13	6
エアコンの温度を推奨温度に設定	0.2880	0.0676	0.2347	3	7
自家発電システムの導入	0.0547	0.0122	0.2231	14	8
徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用	0.2554	0.0502	0.1966	5	9
クールビズ・ウォームビズの実施	0.2358	0.0459	0.1946	7	10
冷蔵庫の開閉時間短縮	0.2433	0.044	0.1809	8	11
節電タップの使用	0.1681	0.0155	0.0922	12	12
こまめに電気を消す	0.7112	0.062	0.0872	4	13
主電源を切る	0.2108	0.0168	0.0797	11	14
長期間モノを使用する	0.5204	0.0232	0.0446	10	15

環境規範平均以下					
市政評価	平均	係数	変化量	係数順位	変化量順位
地域活動・ボランティア支援	3.1356	0.2232	0.0712	1	1
良質な住環境政策	3.0999	0.1835	0.0592	3	2
スポーツの振興	3.1479	0.1842	0.0585	2	3
学校教育の充実	2.9905	0.1667	0.0557	4	4
自然環境保護活動	3.1467	0.1667	0.0530	4	5
ゴミ処理・リサイクル	3.0921	0.1501	0.0485	7	6
大気・水など環境政策	3.2753	0.1583	0.0483	6	7
公園・街路樹整備	3.1562	0.1415	0.0448	8	8
子育て支援の推進	3.1134	0.1272	0.0409	9	9

第3項 社会関係資本サンプル別分析結果

次に、社会関係資本平均以上、平均以下のサンプル分けの分析結果の説明を行う。社会関係資本平均以上の分析においても、15項目すべての環境配慮行動に対し社会関係資本の係数が統計的に有意に正であり、市政評価9項目の係数すべてが社会関係資本に対して統計的に有意に正であるという結果が得られた。係数が高い順にみると、「手間・お金より環境保護」が最も高く、次いで「ゴミを減らす」が高い値となった。市政評価については、「地域活動・ボランティア支援」が最も高く、次いで「スポーツの振興」であり、全サンプル、環境規範平均以上、以下のサンプル分けの結果と特筆すべき差異は見受けられない結果であると言える。

社会関係資本平均以下の分析結果でも同様に、環境配慮行動15項目すべてに対して社会関係資本の係数が統計的に有意に正であり、市政評価についても9項目すべての係数が社会関係資本に対して統計的に有意に正であった。「手間・お金より環境保護」が最も高く、次いで「ゴミを減らす」が高い値となり、市政評価は、「地域活動・ボランティア支援」が最も高く、「スポーツの振興」が次いで高い値となった。

社会関係資本平均以下の分析結果も社会関係資本平均以上の結果と同様に、環境配慮行動に対する社会関係資本の影響、市政評価が与える社会関係資本への影響はすべて統計的に有意に正であり、社会関係資本平均以上の結果とほぼ同様であった。係数について、「手間・お金より環境保護」、「徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用」、「CO₂削減貢献商品の購入」、「エコカー・省エネ製品の購入」、「長期間モノを使用する」、「電気家計簿」、「自家発電システムの導入」の7項目については、社会関係資本平均以上の結果の方が、平均以下より大きくなっている。残りの7項目に関しては、社会関係資本平均以下の方が、係数が低い結果となっている。従って、社会関係資本の影響力には、全サンプル別、環境規範のサンプル別と同様に、項目によって相違が見られた。⁸

一方、変化量を見ると、社会関係資本の平均以上より以下の分析結果の方が、環境配慮行動、市政評価の両方とも値が大きくなっている。すなわち、社会関係資本が低い地域の方が、環境配慮行動に対する社会関係資本の影響、社会関係資本に対する市政評価の影響が強いということである。そのため、社会関係資本平均以下の地域において変化量が高いという結果が得られたことにより、社会関係資本を向上させることによる環境配慮行動へのインパクトが強い可能性が指摘される。

以上の分析によって、環境規範の有無、社会関係資本の高さによって影響力に差異はあるものの、社会関係資本が環境配慮行動促進に対して統計的に有意に正であり、環境配慮行動を促進する方法として、社会関係資本の向上および市政評価の向上が有効であることが示された。さらに、日本においては、環境規範を持つ人に限らず、人々との関係性を高め、地域への愛着を向上させることで環境配慮行動を促進でき、地域全体で環境規範を構

⁸ 社会関係資本平均以上のサンプル分けにおいて、実施率の高い項目は順にこまめに電気を消す、長期間モノを減らす、ゴミを減らす、である。実施率の低い項目については、自然環境保護活動に参加、自家発電システムの導入、電気家計簿である。

社会関係資本平均以下のサンプル分けにおいて、実施率の高い項目は社会関係資本平均以上と同様の結果であり、低い項目についても同様であった。

築し、環境配慮行動を促進できることが示唆された。これらの結果をもとに、環境配慮行動を向上させる政策を提言する。

表 13 分析結果 社会関係資本平均以上

環境配慮行動	クールビズ・ ウォームビズの実施	エアコンの温度を 推奨温度に設定	徒歩・自転車・公共交通機関を 積極的に利用	自家発電システムの 導入
社会関係資本	0.0498***	0.0717***	0.0635***	0.0109***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2198***	0.2198***	0.2198***	0.2198***
公園・街路樹整備	0.1320***	0.1320***	0.1320***	0.1320***
良質な住環境政策	0.1814***	0.1814***	0.1814***	0.1814***
自然環境保護活動	0.1630***	0.1630***	0.1630***	0.1630***
子育て支援の推進	0.1226***	0.1226***	0.1226***	0.1226***
大気・水など環境政策	0.1584***	0.1584***	0.1584***	0.1584***
ゴミ処理・リサイクル	0.1479***	0.1479***	0.1479***	0.1479***
スポーツの振興	0.1796***	0.1796***	0.1796***	0.1796***
学校教育の充実	0.1635***	0.1635***	0.1635***	0.1635***
サンプル数	43,877	43,877	43,877	43,877
環境配慮行動	エコカー・ 省エネ製品の買替	自然環境保護活動に 参加	こまめに電気を消す	冷蔵庫の 開閉時間短縮
社会関係資本	0.0275***	0.0096***	0.0615***	0.0458***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2198***	0.2198***	0.2198***	0.2198***
公園・街路樹整備	0.1320***	0.1320***	0.1320***	0.1320***
良質な住環境政策	0.1814***	0.1814***	0.1814***	0.1814***
自然環境保護活動	0.1630***	0.1630***	0.1630***	0.1630***
子育て支援の推進	0.1226***	0.1226***	0.1226***	0.1226***
大気・水など環境政策	0.1584***	0.1584***	0.1584***	0.1584***
ゴミ処理・リサイクル	0.1479***	0.1479***	0.1479***	0.1479***
スポーツの振興	0.1796***	0.1796***	0.1796***	0.1796***
学校教育の充実	0.1635***	0.1635***	0.1635***	0.1635***
サンプル数	43,877	43,877	43,877	43,877
環境配慮行動	主電源を切る	節電タップの利用	電気家計簿	手間・お金より 環境保護
社会関係資本	0.0204***	0.0103***	0.0176***	0.1207***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2198***	0.2198***	0.2198***	0.2198***
公園・街路樹整備	0.1320***	0.1320***	0.1320***	0.1320***
良質な住環境政策	0.1814***	0.1814***	0.1814***	0.1814***
自然環境保護活動	0.1630***	0.1630***	0.1630***	0.1630***
子育て支援の推進	0.1226***	0.1226***	0.1226***	0.1226***
大気・水など環境政策	0.1584***	0.1584***	0.1584***	0.1584***
ゴミ処理・リサイクル	0.1479***	0.1479***	0.1479***	0.1479***
スポーツの振興	0.1796***	0.1796***	0.1796***	0.1796***
学校教育の充実	0.1635***	0.1635***	0.1635***	0.1635***
サンプル数	43,877	43,877	43,877	43,877
環境配慮行動	CO ₂ 削減貢献商品 の購入	長期間モノを 使用する	ゴミを減らす	
社会関係資本	0.0517***	0.0259***	0.0805***	
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2198***	0.2198***	0.2198***	
公園・街路樹整備	0.1320***	0.1320***	0.1320***	
良質な住環境政策	0.1814***	0.1814***	0.1814***	
自然環境保護活動	0.1630***	0.1630***	0.1630***	
子育て支援の推進	0.1226***	0.1226***	0.1226***	
大気・水など環境政策	0.1584***	0.1584***	0.1584***	
ゴミ処理・リサイクル	0.1479***	0.1479***	0.1479***	
スポーツの振興	0.1796***	0.1796***	0.1796***	
学校教育の充実	0.1635***	0.1635***	0.1635***	
サンプル数	43,877	43,877	43,877	

表 14 分析結果 社会関係資本平均以下

環境配慮行動	クールビズ・ウォームビズの実施	エアコンの温度を推奨温度に設定	徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用	自家発電システムの導入
社会関係資本	0.0507***	0.0723***	0.0597***	0.0093***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2314***	0.2314***	0.2314***	0.2314***
公園・街路樹整備	0.1470***	0.1470***	0.1470***	0.1470***
良質な住環境政策	0.1905***	0.1905***	0.1905***	0.1905***
自然環境保護活動	0.1761***	0.1761***	0.1761***	0.1761***
子育て支援の推進	0.1320***	0.1320***	0.1320***	0.1320***
大気・水など環境政策	0.1688***	0.1688***	0.1688***	0.1688***
ゴミ処理・リサイクル	0.1546***	0.1546***	0.1546***	0.1546***
スポーツの振興	0.1942***	0.1942***	0.1942***	0.1942***
学校教育の充実	0.1707***	0.1707***	0.1707***	0.1707***
サンプル数	43,179	43,179	43,179	43,179
環境配慮行動	エコカー・省エネ製品の買替	自然環境保護活動に参加	こまめに電気を消す	冷蔵庫の開閉時間短縮
社会関係資本	0.0267***	0.0097***	0.0624***	0.0499***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2314***	0.2314***	0.2314***	0.2314***
公園・街路樹整備	0.1470***	0.1470***	0.1470***	0.1470***
良質な住環境政策	0.1905***	0.1905***	0.1905***	0.1905***
自然環境保護活動	0.1761***	0.1761***	0.1761***	0.1761***
子育て支援の推進	0.1320***	0.1320***	0.1320***	0.1320***
大気・水など環境政策	0.1688***	0.1688***	0.1688***	0.1688***
ゴミ処理・リサイクル	0.1546***	0.1546***	0.1546***	0.1546***
スポーツの振興	0.1942***	0.1942***	0.1942***	0.1942***
学校教育の充実	0.1707***	0.1707***	0.1707***	0.1707***
サンプル数	43,179	43,179	43,179	43,179
環境配慮行動	主電源を切る	節電タップの利用	電気家計簿	手間・お金より環境保護
社会関係資本	0.0206***	0.0206***	0.0150***	0.1091***
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2314***	0.2314***	0.2314***	0.2314***
公園・街路樹整備	0.1470***	0.1470***	0.1470***	0.1470***
良質な住環境政策	0.1905***	0.1905***	0.1905***	0.1905***
自然環境保護活動	0.1761***	0.1761***	0.1761***	0.1761***
子育て支援の推進	0.1320***	0.1320***	0.1320***	0.1320***
大気・水など環境政策	0.1688***	0.1688***	0.1688***	0.1688***
ゴミ処理・リサイクル	0.1546***	0.1546***	0.1546***	0.1546***
スポーツの振興	0.1942***	0.1942***	0.1942***	0.1942***
学校教育の充実	0.1707***	0.1707***	0.1707***	0.1707***
サンプル数	43,179	43,179	43,179	43,179
環境配慮行動	CO ₂ 削減貢献商品の購入	長期間モノを使用	ゴミを減らす	
社会関係資本	0.0506***	0.0150***	0.0833***	
市政評価				
地域活動・ボランティア支援	0.2314***	0.2314***	0.2314***	
公園・街路樹整備	0.1470***	0.1470***	0.1470***	
良質な住環境政策	0.1905***	0.1905***	0.1905***	
自然環境保護活動	0.1761***	0.1761***	0.1761***	
子育て支援の推進	0.1320***	0.1320***	0.1320***	
大気・水など環境政策	0.1688***	0.1688***	0.1688***	
ゴミ処理・リサイクル	0.1546***	0.1546***	0.1546***	
スポーツの振興	0.1942***	0.1942***	0.1942***	
学校教育の充実	0.1707***	0.1707***	0.1707***	
サンプル数	43,179	43,179	43,179	

表 15 社会関係資本平均以上 係数と変化量

社会関係資本平均以上					
環境配慮行動	平均	係数	変化量	係数順位	変化量順位
自然環境保護活動に参加	0.0143	0.0096	0.6729	15	1
手間・お金より環境保護	0.2084	0.1207	0.5792	1	2
CO ₂ 削減貢献商品の購入	0.1066	0.0517	0.4849	6	3
電気家計簿	0.0631	0.0176	0.2789	12	4
エコカー・省エネ製品の買替	0.1166	0.0275	0.2358	9	5
ゴミを減らす	0.3479	0.0805	0.2314	2	6
徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用	0.2843	0.0635	0.2234	4	7
エアコンの温度を推奨温度に設定	0.3229	0.0717	0.2220	3	8
クールビズ・ウォームビズの実施	0.2583	0.0498	0.1928	7	9
冷蔵庫の開閉時間短縮	0.2550	0.0458	0.1796	8	10
自家発電システムの導入	0.0620	0.0109	0.1759	13	11
主電源を切る	0.2156	0.0204	0.0946	11	12
こまめに電気を消す	0.7301	0.0615	0.0842	5	13
節電タップの使用	0.1684	0.0103	0.0612	14	14
長期間モノを使用する	0.5328	0.0259	0.0486	10	15

社会関係資本平均以上

市政評価	平均	係数	変化量	係数順位	変化量順位
地域活動・ボランティア支援	3.1688	0.2198	0.0694	1	1
スポーツの振興	3.1425	0.1796	0.0572	3	2
良質な住環境政策	3.2159	0.1814	0.0564	2	3
学校教育の充実	3.1497	0.1635	0.0519	4	4
自然環境保護活動	3.2059	0.163	0.0508	5	5
大気・水など環境政策	3.1256	0.1584	0.0507	6	6
ゴミ処理・リサイクル	3.3187	0.1479	0.0446	7	7
公園・街路樹整備	3.2065	0.132	0.0412	8	8
子育て支援の推進	3.0213	0.1226	0.0406	9	9

表 16 社会関係資本平均以下 係数と変化量

社会関係資本平均以下					
市政評価	平均	係数	変化量	係数順位	変化量順位
地域活動・ボランティア支援	3.1688	0.2198	0.0694	1	1
スポーツの振興	3.1425	0.1796	0.0572	3	2
良質な住環境政策	3.2159	0.1814	0.0564	2	3
学校教育の充実	3.1497	0.1635	0.0519	4	4
自然環境保護活動	3.2059	0.163	0.0508	5	5
大気・水など環境政策	3.1256	0.1584	0.0507	6	6
ゴミ処理・リサイクル	3.3187	0.1479	0.0446	7	7
公園・街路樹整備	3.2065	0.132	0.0412	8	8
子育て支援の推進	3.0213	0.1226	0.0406	9	9

社会関係資本平均以下

市政評価	平均	係数	変化量	係数順位	変化量順位
地域活動・ボランティア支援	3.1287	0.2314	0.0740	1	1
スポーツの振興	3.1142	0.1942	0.0624	2	2
良質な住環境政策	3.1396	0.1905	0.0607	3	3
自然環境保護活動	3.0948	0.1761	0.0569	4	4
大気・水など環境政策	3.0863	0.1688	0.0547	6	5
学校教育の充実	3.1462	0.1707	0.0543	5	6
ゴミ処理・リサイクル	3.2768	0.1546	0.0472	7	7
公園・街路樹整備	3.1620	0.147	0.0465	8	8
子育て支援の推進	2.9841	0.132	0.0442	9	9

第4章 政策提言

第1節 政策提言の方向性

分析結果から、地域活動・ボランティア支援、スポーツの振興、良質な住環境政策、自然環境保護活動、学校教育の充実、大気・水など環境政策、ゴミ処理・リサイクル、公園・街路樹整備、子育て支援の推進に対する市政評価が、社会関係資本に対して影響があることが分かった。また、環境配慮行動の項目に関して、自然環境保護活動に参加、手間・お金より環境保護、CO2削減貢献商品の購入、電気家計簿、エコカー・省エネ製品の買替、ゴミを減らす、エアコンの温度を推奨温度に設定、徒歩・自転車・公共交通機関を積極的に利用、クールビズ・ウォームビズの実施、冷蔵庫の開閉時間短縮、自家発電システムの導入、主電源を切る、節電タップの使用、こまめに電気を消す、長期間モノを使用するという項目に関して、社会関係資本による影響があった。これらの結果を踏まえ、我々は、尾張旭市・名古屋市・長久手市・あま市に対して聞き取り調査を行った。

聞き取り調査を行う中で、「コミュニティ・スクール」というものがあることを知った。地域住民・保護者が学校運営の基本方針を承認し、教育活動などについて意見を述べる場を設ける取り組みのことである。これは、「地域とともにある学校づくり」を主題に文部科学省が推進しているものである。

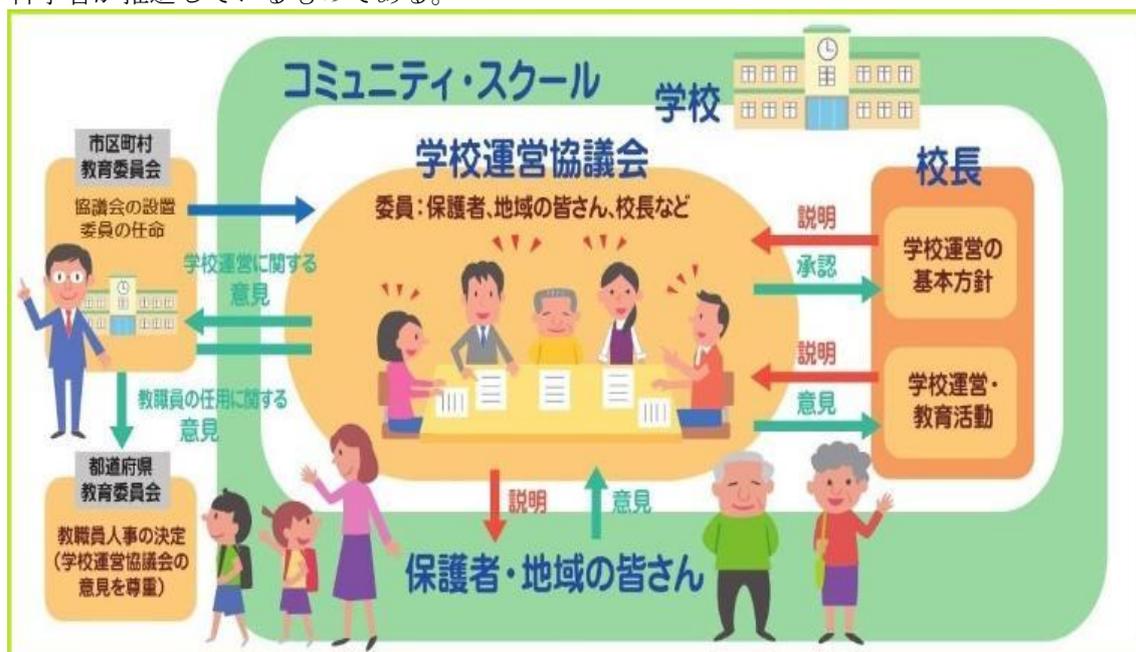


図2 文部科学省の定めるコミュニティ・スクール概要
出典) 文部科学省 コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)

そして、尾張旭市では、このコミュニティ・スクールを少し発展させ、「地域に学ぶ・地域で育つ・地域をつくる」を3つの柱に、学校を中心とした地域づくりを目指す取り組みを行っている。この取り組みの狙いは、住民主体での地域活性である。その政策は、環境配慮行動を促進するために必要な市政評価を高め得る、という点において有効だと言える。(例えば、地域行事への参加・運営補助を行えば、市政評価のうち、地域活動・ボランティア支援の評価が高まると考えられる)。この取り組みから考察するに、地域の人々のつながりを増やし、共に活動する機会を与えられるような「場」を提供する取り組みが、市政評価を高めることにつながると考えられる。このことを踏まえ、聞き取り調査の対象4市の内、尾張旭市を除く3市においても、同様の取り組みが行われていないか確認した。確認をしたところ、長久手市では、「地域共生ステーション」というものを設け、住民主体の地域活性を目的とする取り組みを行っていた。また、あま市においても、「市民活動センター」というものを設け、同様に、住民主体の地域活性を期待した取り組みを行っており、より発展させていく予定だという。以上のことから、住民主体の地域活性というのは市政にとって課題である。また、その解決手段として、地域の人々がつながりを増やし、共に活動を行える「場」を提供することは、有効だと考えられているようである。そして、このような「場」を提供する取り組みが、市政評価を高め得ることを考慮すると、このような取り組みを押し進めていくことが、住民主体の地域活性を促すだけでなく、市政評価を高め、社会関係資本を蓄積し、環境配慮行動の促進につながると言えるだろう。従って、このような取り組みを導入することは効果的だと考えられる。そして、我々はそのような取り組みを、より発展させ、より効果的なものとするために「小学校の休日開放」を提案する。

第2節 政策提言「小学校の休日開放」有効性

第1項 9つの市政評価を高め得る「小学校の休日開放」

第1節で取り上げた、市政評価を高め得る既存の取り組みは、我々が扱っている9つの市政評価のうち、特定のものを高めるものである。そこで、より効果的なものとするために、9つすべての市政評価を上げ得るものが必要となる。このことを踏まえて、分析によって有意性が示された市政評価に「小学校の休日開放」がどのように有効なのか。以下表にまとめる。

表 17 「小学校の休日開放」がどのように市政評価を高めるか

地域活動・ ボランティア支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動やボランティアの「場」の提供。 ・「場」を提供したことで増え得る地域活動、ボランティア活動を補助金で支援。
スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ活動の「場」の提供。 ・市が主催してスポーツイベントを行う。
良質な住環境政策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校近隣の歩行者の増加による防犯効果。
学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の定める「コミュニティ・スクール」を取り入れ、地域住民の学校教育への参加を促し意見を反映。
子育て支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに苦悩する親の相談所を設ける。 ・また、そのような住民が集う集会を開く。 ・要らなくなった子育て用品を集め、必要な人に配る取り組み。
自然環境保護活動	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている政策を、学校に集まった人に知ってもらえるようなブースを設ける。 ・学校で住民の意見を直接聞き、市政に反映させる。（△地区の自然が失われているなど）
大気・水など環境政策	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている政策を、学校に集まった人に知ってもらえるようなブースを設ける。 ・学校で住民の意見を直接聞き、市政に反映させる。（〇〇川のゴミが多いなど）
ゴミ処理・リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・市の職員だと分かる格好で学校、その周辺の清掃活動を行う。（学校の開放で、その内外にゴミが増えると考えられるため） ・現在のリサイクル状況について情報を知らせる。 ・学校でリサイクル品の回収を行う。
公園・街路樹整備	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の意見を直接聞き、反映させていく。

第2項 他施設ではなく「小学校」を開放する利点

聞き取り調査を踏まえたうえで、他の既存施設ではなく、「小学校」を開放する利点として以下の2つが挙げられる。

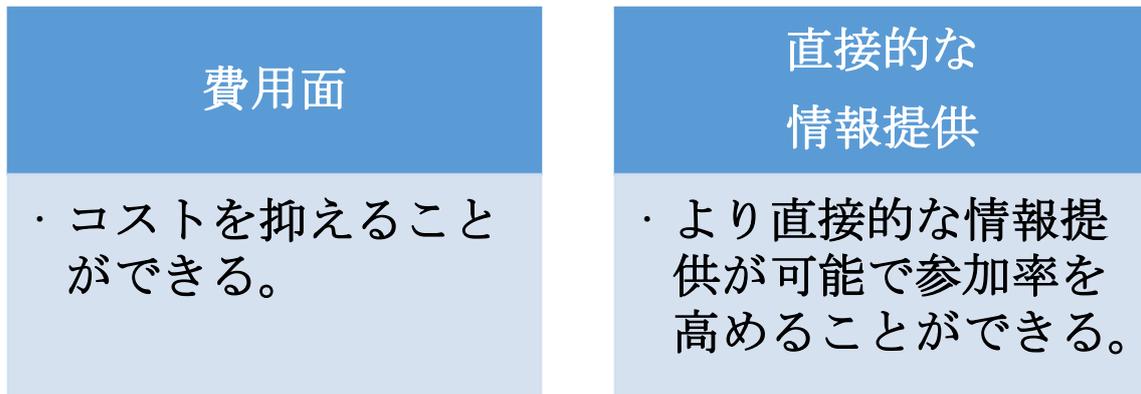


図3 小学校を開放する利点 筆者作成

I. 政策の費用面で優れている

政策導入に際して、あま市、長久手市とも既存施設を改築していた。もちろん、それも手段の一つである。しかし、より多くの地域で本政策を導入するならば、費用は少ない方がいいと考えられる。その点小学校は、土地も広く、施設、設備はある程度揃っているため、予算が少ない地域でも比較的導入しやすいと言える。

II. 「小学生」を用いた、より直接的な情報提供で参加率が高まる

聞き取り調査を4市に行ったが、どの市においても、政策や取り組みに関する情報を、市民に届けることに頭を悩ませている印象だった。パンフレットや市のホームページにおいて、情報提供はしているものの、参加率などから考えるに、その効果に関して不満は残るようである。このような現状を踏まえ、我々はより直接的な情報提供の方法として小学生を利用できないかと考えた。帰りの会で、学校開放日のイベントについて先生が情報を発信、また、校舎内、学級掲示板に情報を掲載する。興味を持った小学生が家庭に持ち帰り、各家庭で情報を伝える。そこで親、祖父母も興味を持てば、参加率は高まるだろう。また、学校外の施設等でイベントを開催する場合、保護者が忙しく、送迎が難しいため、参加率が下がる可能性がある。しかし、自分の通う小学校でイベントが開催されれば、子供だけで行くことが可能であると考えられるため、参加率の向上が期待できる。

第3項 政策の効果の測定

政策の効果を測ることは重要であり、当政策を継続していくか打ち切るべきかの判断材料として必要である。本政策においては、市政評価及び環境配慮行動に関するアンケートを政策導入と共に毎年実施し、それをもとに効果を測っていくことが有効だと考えられる。また、市政評価に関するアンケートは、多くの市町村ですでに実施されているので、政策導入以前との比較も可能だと考えられる。環境配慮行動の実施状況についても、第1章で取り上げた、第四次環境基本計画の点検で、毎年調査されているので、それも参考に効果を測ることができるだろう。

第3節 政策提言のまとめ

前節において、政策提言として「小学校の休日開放」を述べた。小学校の休日開放の効果としては、2つ考えられる。一つ目は9つの市政評価を高め得ることである。そして、もう一つは、「小学校」を利用し、「小学生」を市と住民との情報提供の媒体とすることで、広報や、市のホームページにて情報提供を行うことに比べ、より直接的な情報提供が期待できることである。これらの政策によって、市政評価が上がることで、社会関係資本が高まり、結果として環境配慮行動が促進されるのではないかと考えられる。その効果は、政策導入年度から市政評価と環境配慮行動に関するアンケートを実施することで測定できるだろう。最後に、政策のプロットを載せ締めくくる。

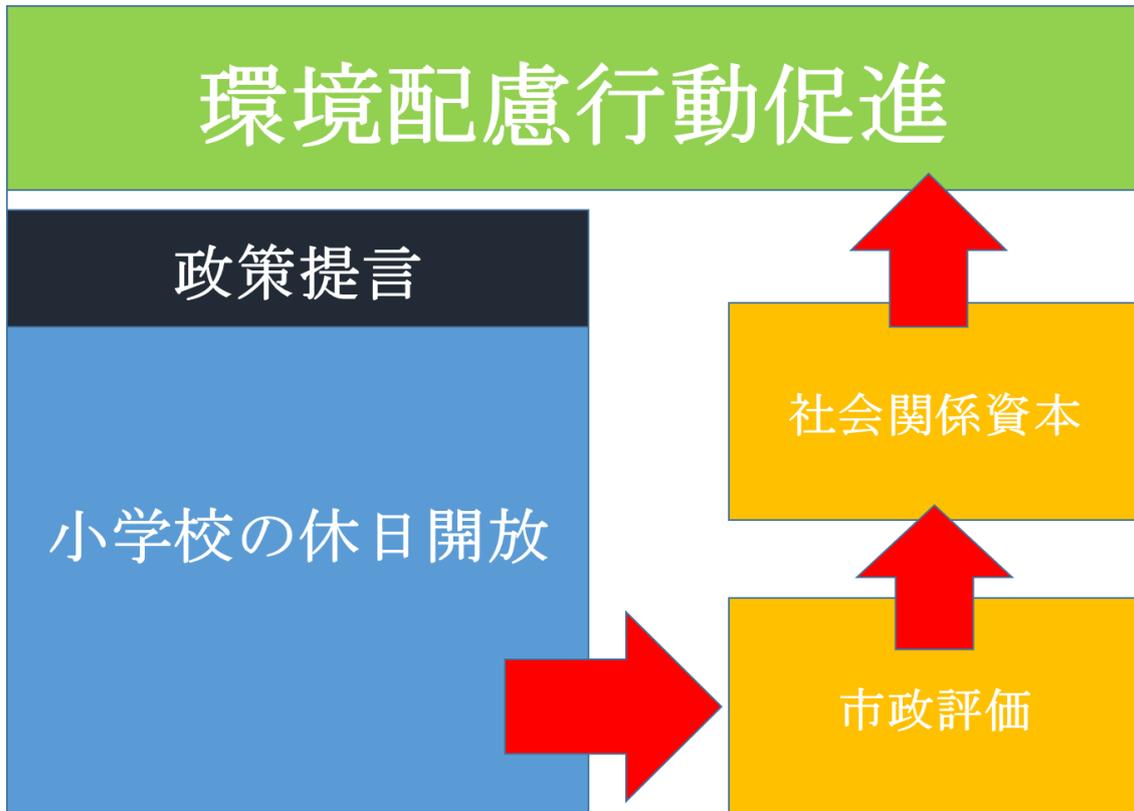


図4 政策提言プロット 筆者作成

第4節 おわりに

本稿では、「環境配慮行動」を促進することを目的とし、その手段として、「社会関係資本」に着目した。現状分析を行う中で、持続可能な社会実現のため、環境配慮行動を重要視しているにも関わらず、環境配慮行動の実施状況は不十分であることが分かった。そこで、その実施状況の低さを考察していくうちに、「社会的ジレンマ」という環境配慮行動の阻害要因にたどり着いた。そして、社会的ジレンマを取り除くことができるものとして、社会関係資本という概念があることを知り、社会関係資本を用いて環境配慮行動を促進できないかと考えた。環境配慮行動の促進にあたって、社会関係資本の決定要因を見つける必要があった。先行研究をいくつか読むうちに、市政評価が社会関係資本の決定要因なのではないかと考え分析を行った。その結果、市政評価が社会関係資本に影響することが分かり、我々は市政評価を上げることが、社会関係資本を高め、結果として環境配慮行動を

促進することができると考えた。そして、実現のための政策として「小学校の休日開放」を提言した。

しかし、本稿では社会関係資本の概念における「結合型」⁹、「橋渡し型」の議論ができなかった。これは、今回分析に用いたアンケートにおいて、それらに関する指標が無かったためである。「結合型」、「橋渡し型」の議論は社会関係資本を語る上で非常に重要であるので、それに関する議論は今後の研究課題としたい。

最後に、本稿の執筆にあたって、聞き取り調査にご協力いただいた、尾張旭市役所企画部企画課企画係の担当者様、並びに名古屋市市民経済局地域振興課、名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課、長久手市暮らし文化部たつせがある課、あま市企画財政部の担当者の皆様には、多くの貴重なご意見、ご指摘を頂いた。ここに感謝の意を表す。本研究が、日本全体の環境配慮行動促進につながり、持続可能な社会実現への足掛かりになることを願い、本稿を締めくくる。

⁹ Putnam(1993)によれば、結合型ソーシャルキャピタルとは、組織の内部における人と人との同質的な結びつきで、内部で信頼や協力、結束を生むものである。また、橋渡し型ソーシャルキャピタルとは、異なる組織間における異質な人や組織を結び付けるネットワークである。

並び替え

先行研究・参考文献・別添

・環境省「第四次環境基本計画」

http://www.env.go.jp/policy/kihon_keikaku/plan/plan_4/attach/ca_app.pdf

2017/10/30 データ取得

・環境省「環境にやさしいライフスタイル実態調査報告書 平成 28 年度」

http://www.env.go.jp/policy/kihon_keikaku/lifestyle/h2904_01/h28_full01.pdf

2017/10/30 データ取得

・「環境・エネルギー補助金サイト エネポ」

<http://www.ene-po.com/> 2017/10/30 データ取得

・環境省 「COOL CHOICE 未来のために、いま選ぼう。-Fun to Share-

<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/index.html> 2017/10/30 データ取得

・内閣府 (2016) 「地球温暖化対策に関する世論調査」

<http://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-ondanka/2-3.html> 2017/10/30 データ取得

・竹橋洋毅 (2008) 「幸福感と環境配慮行動の関係性」『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』11 143-154

・今井芳昭 (2008). 「環境配慮行動を促すための社会心理学的アプローチ」『東洋大学エコ・フィロソフィ研究』2, 107-128

・R. Putnam(1993) '*Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*'
'Princeton University Press'

・稲葉陽二 (2008) 『ソーシャル・キャピタルと経済格差』

稲葉陽二(編著) 『ソーシャルキャピタルの潜在力』pp171-181

・滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所 (2016) 「ソーシャルキャピタルの豊かさを生かした地域活性化 地域活動のメカニズムと活性化に関する研究会報告書」

<http://www.esri.go.jp/jp/prj/hou/hou075/hou075.html> 2017/10/30 データ取得

・倉増啓・鶴見哲也・馬奈木俊介 (2011) 「生物多様性保全に関する環境意識の決定要因ーミレニアム開発目標との関係性においてー」『環境科学会誌』24 397-404

・Julio Videras, Ann L. Owen, Emily Conover, Stephen Wu (2012) '*The influence of social relationships on pro-environment behaviors*' '*Journal of Environmental Economics and Management*' 63 35-50

・丸田昭輝・松橋隆治・吉田好邦 (2008) 「市民の社会的属性・社会信頼度が省エネ行動に及ぼす影響の分析ーソーシャルキャピタルによる分析ー」『環境情報科学論文集』22 297-302

- ・内閣府国民生活局（2003）「平成 14 年度 ソーシャルキャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」<https://www.npo-homepage.go.jp/toukei/2009izen-chousa/2009izen-sonota/2002social-capital> 2017/10/30 データ取得
- ・長積仁・榎本悟・松田陽一（2006）「スポーツ振興とソーシャルキャピタルの相互補完的關係～ソーシャルキャピタル研究の視座と可能性～」『徳島大学総合科学部 人間科学研究』 第 14 巻 9-24
- ・Hall, Peter A(1999) ‘*Social Capital in Britain*’ ‘*British Journal of Political Science*’ 29: 417-461
- ・Tsong-hsiu Tsai (2008) ‘*The Impact of Social Capital on Regional Waste Recycling*’ ‘*Wiley InterScience*’ 16 44-55
- ・文部科学統計要覧（平成 28 年版）
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/002/002b/1368900.htm
2017/10/30 データ取得
- ・文部科学省 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/ 2017/10/30 データ取得
- ・あま市 「平成 24 年あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例」
http://www.city.ama.aichi.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/003/569/partnership_jourei.pdf 2017/10/24 データ取得
- ・長久手市 「平成 28 年度版市民の力を活かすまちづくり」
https://www.city.nagakute.lg.jp/jyouhou/kouhou/kouhoushi/documents/201703koho/201703koho_P8.pdf 2017/10/23 データ取得
- ・長久手市 「意見の募集を終了したもの」
<https://www.city.nagakute.lg.jp/jyouhou/kouhou/publiccomment/puburikkubosyuusyuu-ryou.html> 2017/10/23 データ取得
- ・長久手市 「ながくて『COOL CHOICE（クール チョイス）』宣言！」
https://www.city.nagakute.lg.jp/kankyo/seikatsu_kankyou/sengen.html 2017/10/23
データ取得
- ・尾張旭市 「CO2・CO2（コツコツ）ダイエットプラン事業への参加家庭募集」
<https://www.city.owariasahi.lg.jp/kurasi/seikatu/kankyou/kateibaniso/kotukotu.html> 2016/10/17 データ取得
- ・尾張旭市 「家庭版環境 ISO 事業への参加家庭募集」
<https://www.city.owariasahi.lg.jp/kurasi/seikatu/kankyou/kateibaniso/kateiiso.html> 2016/10/17 データ取得
- ・名古屋市 「平成 26 年度地域コミュニティ活性化に関する調査報告書」

http://www.city.nagoya.jp/shiminkeizai/cmsfiles/contents/0000080/80664/chiikiken_touhoukokusyo.pdf 2016/10/17 データ取得

- ・名古屋市 「平成 27 年度イキカツ（地域活動）応援講」

<http://www.city.nagoya.jp/shiminkeizai/page/0000078418.html> 2016/10/17 データ取得

- ・名古屋市 「コミュニティサポーターの派遣について」

<http://www.city.nagoya.jp/shiminkeizai/page/0000086792.html> 2016/10/17 データ取得

- ・名古屋市 「平成 28 年度パブリックコメント手続実施報告」

<http://www.city.nagoya.jp/somu/page/0000093983.html> 2016/10/17 データ取得

- ・名古屋市 「なごやエコラボポイント」

<http://www.city.nagoya.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000093/93270/yomiagetirashi.pdf> 2016/10/17 データ取得

(別添2) 名古屋市 聞き取り調査概要	
実施日	場所
2017年10月19日(木)	名古屋市役所(名古屋市中区)
参加者	
名古屋市市民経済局地域振興課 平野雅也様 猪飼彩乃様	
名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課 尾上圭様	
南山大学鶴見研究室 駒木映理奈 今井寧乃 佐々木一秀 山本真由	
議事内容	
<p>● <u>名古屋市の人々のつながりは希薄化しているか。</u></p> <p>「あなたは、地域の人々のつながりやまとまりが薄れてきていると思いますか。」という質問に対し、「そう思う」が33.7%、「どちらかといえばそう思う」が43.2%で、両者で76.9%を占めているため、全体的に地域の人々のつながりやまとまりが薄れてきていると感じている。</p>	
<p>● <u>名古屋市の人々のつながりの希薄化の要因はなにか。</u></p> <p>少子高齢化や単身世帯が増加しているから。価値観やライフスタイルの多様化のため。また、平成28年度は自治会加入率が74.4%であったが、10年前に比べ約10%減少しており自治会の加入率が減っているから。</p>	
<p>● <u>名古屋市の人々のつながりの希薄化による問題点はなにか。</u></p> <p>町内会・自治会、女性会や子ども会、老人クラブでの役員のなり手がいないこと。地域で助け合いができないこと。</p>	
<p>● <u>人々とのつながりを強める政策は導入しているか。</u></p> <p>イキカツ応援講座の実施。主な内容としては、地域活動に関心のある人を対象に、活動を始めるきっかけづくりを行う。また、地域団体の運営や活動の支援をするコミュニティサポーターを活用している。</p>	
<p>● <u>上記の政策のためにどのくらいの税金を投入しているのか。</u></p> <p>平成28年度の決算額としては、イキカツ応援講座には991,386円、コミュニティサポーターの活用には9,202,315円投入している。</p>	

● 市民からどれくらい意見が届くか。

平成28年度に実施したパブリックコメントへの意見提出人数は、計画によってばらつきがあり、提出数は0件から707件、意見数は0件から1,444件である。

● 市民からの意見はどのくらい市政に反映されるのか。

市民からの意見は市政に非常に役に立っている。平成28年度において、パブリックコメント手続きを実施して策定された計画は、第2次名古屋市多文化共生推進プラン(案)をはじめ20に及ぶ。

● どのような環境政策を実施しているのか。

「なごやエコラボポイント」の実施。なごやエコラボポイントとは緑のカーテンづくりなどの名古屋市の「エコライフ事業」に参加すると、協力事業者のポイントが獲得できるしくみ。獲得したポイントは、買い物、電気、ガス料金の支払いなどさまざまな用途に利用できる。

● コミュニティ・スクールの導入状況はどのくらいか。

現段階では導入していない。

● 我々が考える政策は実現可能か。

コミュニティ・スクールの導入について検討中。実現可能性に関しては全くないということはない。

(別添3) 長久手市 聞き取り調査概要	
実施日	場所
2017年10月23日(月)	長久手市役所(長久手市岩作)
参加者	
長久手市くらし文化部たつせがある課 遠藤健一様 坂倉温様 南山大学鶴見研究室 駒木映理奈 今井寧乃 山本真由 保富美佳	
議事内容	
<p>● <u>長久手市の人々のつながりは希薄化しているか。</u></p> <p>長久手市の東の地域は昔からある集落であり、都市開発が西の地域よりも進んでいないためつながりは強いと考えられる。一方、西の地域は、新しく引っ越してきた人々が多く住んでおり、また自治会加入率が40%程度であり、人々のつながりは希薄化していると考えられる。</p> <p>● <u>長久手市の人々のつながりの希薄化の要因はなにか。</u></p> <p>転入してきた人や引っ越してきた人が多いから。また、長久手市はベッドタウンであるので、日中は通学や通勤などで名古屋市に出向いているため昼間人口が少ないため。</p> <p>● <u>長久手市の人々のつながりの希薄化による問題点はなにか。</u></p> <p>何かあったときに頼る人がいないので公共機関に頼っていること。また、地域の担い手が固定化しており、世代交代ができていない点。</p> <p>● <u>人々とのつながりを強める政策は導入しているか。</u></p> <p>「まちづくり協議会」という地域が主体性を持って、地域特有の課題に取り組むことができる地域コミュニティを構築するため、子ども会やシニアクラブをネットワーク化した、団体でまちづくりを考える政策。</p> <p>空き家や空き店舗を改装して、地域の人々が集まりやすい場所を提供する「地域共生ステーション」の建設。</p> <p>● <u>人々とのつながりを強める政策にどのくらいの予算を割り当てているのか。</u></p> <p>まちづくり協議会は年間650万円。 共生ステーションは年ごとに予算が変わる。</p> <p>● <u>市民からどれくらい意見が届くか。</u></p> <p>古戦場公園再整備基本計画(案)に関しては22件意見が寄せられ、そのほか400件ほど意見が寄せられている。</p> <p>● <u>市民からの意見はどのくらい市政に反映されるのか。</u></p> <p>市民からの意見は非常に役に立っている。市長と地域団体が直接話す場が設けられることもあり、また職員が直接現場に出向き市民から意見をいただくこともある。</p>	

● どのような環境政策を実施しているのか。

2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという目標達成のために、省エネ・低炭素型製品・サービス・行動など、温暖化対策に役に立つあらゆる「賢い選択」を行うクールチョイス運動(例えばエコカーの購入、エコ住宅の建設、エコ家電、公共交通機関の利用、クールビズの実践など)を推進している。

● コミュニティ・スクールの導入状況はどのくらいか。

現段階では導入していない。

● 我々が考える政策は実現可能か。

学校を開放するのはなかなか難しいが、その代替として地域共生ステーションがある。地域共生ステーションでは地域の人が自分の特技や知恵を他の人に共有し、コミュニケーションを図る場である。この地域共生ステーションをうまく活用すれば、人と人とのつながりがさらに高まるのではないか。

(別添1) 尾張旭市 聞き取り調査概要	
実施日	場所
2017年10月17日(火)	尾張旭市役所(尾張旭市東大道町)
参加者	
尾張旭市役所企画部企画課企画係 竹内雄紀様	
南山大学鶴見研究室 駒木映理奈 今井寧乃 佐々木一秀 山本真由 保富美佳	
議事内容	
<p>● <u>尾張旭市の人々のつながりは希薄化しているか。</u></p> <p>全国的にもそうであるように自治会への加入率が低下していることや、近年の市民アンケートの結果をみると地域への愛着が低下していることからみると、尾張旭市でも人々や地域とのつながりは希薄化しているのではないかと考えられる。</p>	
<p>● <u>尾張旭市の人々のつながりの希薄化の要因はなにか。</u></p> <p>特に新たに転入してきた世帯やマンションに住む住民などの自治会への加入率が低いと聞いたことがあり、これによって地域とのつながりが希薄化し、ひいては人とのつながりも希薄になっているのではないかと考えられる。また、直接的な影響ではないかもしれないが、市に対して誇りや愛着を持っている市民の方が少なくなっていることも要因となっているように感じている。</p>	
<p>● <u>尾張旭市の人々のつながりの希薄化による問題点はなにか。</u></p> <p>自治会加入率が低下している点でいえば、自治会の構成員の高齢化や地域のお祭りなどの担い手不足が考えられる。</p>	
<p>● <u>人々とのつながりを強める政策は導入しているか。</u></p> <p>市民の方の自発的な活動を促進するという観点でいえば、市民活動に対して活動促進助成事業を行い、対象団体・事業に対して助成金を交付している。また、自治会・町内会への加入促進も行っており、定期的に自治会が行う事業の報告や交流会なども実施している。</p>	
<p>● <u>人々とのつながりを強める政策にどのくらいの予算を割り当てているのか。</u></p> <p>前年度の政策別の予算編成結果をみると、全体の1%程度（1億6000万円）を人と人とのふれあいに関する政策に割り当てている。</p>	
<p>● <u>市民からの意見はどのくらいあるのか。</u></p> <p>メールや投書による意見数でいえば、年間で100件ほどよせられている。</p>	
<p>● <u>市民からの意見はどのくらい市政に反映されるのか。</u></p> <p>いただいた全ての意見については、庁内で閲覧し、必要に応じて状況の調査や返答を作成するとともに、今後の市政運営の参考としている。</p>	

● どのような環境政策を実施しているのか。

市民の方の環境配慮を促進するために「CO2CO2ダイエットプラン」を実施している。各環境配慮行動の項目が記載されたチャレンジシートを配布し、完成後提出をする。さらに、今後の環境配慮行動を促すため、家庭版環境ISOを配布している。家庭版環境ISOとは、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の“PDCAサイクル”の考え方を取り入れたシステムで、各家庭で環境にやさしい生活を進めってもらうためのもの。

● 尾張旭市のコミュニティ・スクールとはどのようなものか。

尾張旭市では、学校を拠点として地域の方々も一緒に子どもたちを育てていこうという趣旨のもと、コミュニティ・スクールに取り組んでいる。例えば、休日に市内の小学校を利用し、地域住民がボランティアで子どもたちにマリンバや編み物などを教えている。

● コミュニティ・スクールの導入状況はどのくらいか。

2017年の段階では、市内の小学校9校中6校で導入している。今後は市内の全小学校に導入する予定。

(別添4) あま市 聞き取り調査概要	
実施日	場所
2017年10月24日(火)	あま市役所(あま市木田)
参加者	
あま市企画財政部 企画政策課 島田崇様 高橋由佳様 あま市市民活動センター リーダー 小林優太様 南山大学鶴見研究室 駒木映理奈 今井寧乃 佐々木一秀	
議事内容	
<p>● <u>あま市の人々のつながりは希薄化しているか。</u></p> <p>人々のつながりは、地域によって異なり、一概に希薄化しているとは言い難い。甚目寺あたりでは希薄化していると思われるが、地域によっては、つながりは強くなっていると感じる。</p> <p>● <u>あま市の人々のつながりの希薄化の要因はなにか。</u></p> <p>甚目寺はベッドタウンであり、引っ越してきた人が多く隣人や近所の人とのかかわりが薄いからではないか。</p> <p>● <u>あま市の人々のつながりの希薄化による問題点はなにか。</u></p> <p>防災、防犯等、地域の共助による対応力の低下。高齢者を支える生活支援サービスの担い手の不足。</p> <p>● <u>人々のつながりを強める政策は導入しているか。</u></p> <p>市民活動を応援する「市民活動センター」の設立。まちづくりを担う市民、地域組織、市民活動団体、事業者、市が対等な立場で助け合い、信頼関係を築くためのパートナーシップ条例の制定。パートナーシップ条例の目的を達成するための、あま市まちづくり委員会の設置。地域組織、市民活動団体の自主事業を支援する補助金制度等。</p> <p>● <u>人々のつながりを強める政策にどのくらいの予算を割り当てているのか。</u></p> <p>下記参照 【参考】 市民活動センター事業費（市民活動センターの維持管理に関する費用） 6,471千円 コミュニティ活動推進事業補助金（コミュニティの活動に対する補助金） 2,100千円 市民活動推進事業補助金（活動団体を支援するための補助金） 600千円 市民協働推進事業補助金（まちづくり委員会、職員研修等市民協働を推進するための費用） 625千円 まつり負担金（あま市の夏祭り「あまつり」に関する費用） 10,000千円 施設管理費（コミュニティの寄り場となる施設の維持管理に関する費用6施設分） 24,444千円 計34,240千円</p>	

● 市民からの意見はどのくらい市政に反映されるのか。

市民からの意見は非常に役に立っている。市長が市民の声を直接聞く場である「ふれあいミーティング」の開催や、小学生と市長が語り合う場である「市長と語ろうあまの未来」を開催し、市民からの率直な意見を取り入れるよう努めている。

● どのような環境政策を実施しているのか。

市で年に1回ごみゼロ運動を行っている。車の自動運転のテスト走行。生ごみの堆肥化を推進する家庭用ごみ減量機器や太陽光発電システムの設置に対する補助金。

● コミュニティ・スクールの導入状況はどのくらいか。

現段階では導入していない。

● 我々が考える政策は実現可能か。

平日に小学校の空き教室を利用して高齢者サロンを開催しているので、学校を開放すること自体は可能。政策の実現可能性は将来的にあるのではないか。